

[illegible]

専門	選択	工学総論I	0020	学修単位	2	集中講義					小西 大 二郎	
専門	選択	工学総論II	0021	学修単位	2	集中講義					小西 大 二郎	
一般	選択	実践英語Ⅱ	0022	学修単位	2				2		山口 裕 美	
一般	選択	社会科学概論	0023	学修単位	2					2	角谷 英 則	
一般	選択	現代哲学	0024	学修単位	2					2	稲田 知 己	
専門	選択	数理工学	0025	学修単位	2				2		横谷 正 明	
専門	選択	科学探究	0026	学修単位	2					2	山口 大 造	
専門	選択	先端技術特別講義	0027	学修単位	1				集中講義		野村 健 作	
専門	選択	システム制御工学	0028	学修単位	2					2	八木 秀 幸	
専門	選択	生産管理工学	0029	学修単位	2				2		眞鍋 由 雄	
専門	選択	長期インターンシップ	0030	学修単位	2				集中講義		野村 健 作	
専門	選択	地域連携演習	0031	学修単位	1				集中講義		中村 重 之	
専門	選択	国際コミュニケーション演習	0032	学修単位	1				集中講義		小西 大 二郎	
専門	必修	機械・制御システム特別研究II	0033	履修単位	8				8	8	井上 浩 行,佐 藤 紳二 加藤学, 細谷和 野中範 中護 小林敏 郎	
専門	選択	流体力学	0034	学修単位	2				2		佐藤 紳 二	
専門	選択	機能性材料学	0035	学修単位	2					2	山口 大 造	
専門	選択	材料強度学	0036	学修単位	2				2		塩田 祐 久	
専門	選択	振動工学	0037	学修単位	2				2		山本 吉 範	
専門	選択	電気エネルギー工学	0038	学修単位	2					2	桶 真一 郎	
専門	選択	応用制御工学	0039	学修単位	2					2	竹谷 尚	
専門	選択	計算力学	0040	学修単位	2				2		小林 敏 郎	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	実践英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：石井隆之 他著. Overall Skills for the TOEIC (R) Test (成美堂) 参考書：辞書（電子辞書可）, 配布プリント, リンガポルタ（教科書のe-learning教材）						
担当教員	住田 光子						
到達目標							
[学習目的] 研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につけていること。 [到達目標] 1.本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。 2.国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。 3.自分の到達度を測る手段としてTOEICを利用し、履修後にスコアを上げることができる。 4.文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。 ◎：技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。		身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。		身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。		身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につけていない。
評価項目2	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがスムーズにできる。		国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。		国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがなんとかできる。		国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができない。
評価項目3	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができる。		TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を おおむね解くことができる。		TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をいくらか解くことができる。		TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができない。
評価項目4	文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。		文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿をおおむね用意することができる。		文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿をかううじて用意することができる。		文法的に正しく、論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別・学習の分野：一般・外国語 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：英語・英米文学・言語学・音声学 専攻科学習目標との関連： 本科目は専攻科学習目標「（４）特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（F）コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3：技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。 授業の概要： さまざまな場面で使用される英語の表現を学び、理工系大学生として必要なコミュニケーション能力を伸ばす。 TOEICテストの解説も行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法：英語での発表で必要となる表現を学び、実際に発表も行っていく。同時にTOEICのテキストを用いて、単元毎に文法の解説を含みながら、TOEIC受験へ向けた対策も進めていく。 成績評価方法：授業での演習を60%（口頭発表・課題消化・小テストなど）、筆記試験を40%とし、合計により評価する。筆記試験では持込一切不可。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。基礎的な英語によるコミュニケーション能力を身につけ、TOEICテストで良いスコアを取得しておくこと就職そして就職後の昇進の際にも有利である。 基礎科目：英語Ⅳ（４年）、選択英語Ⅰ（４）、英語Ⅴ（５）、選択英語Ⅱ（５） 関連科目：技術英語講読（専１年）、実践英語Ⅱ（専２） 受講上のアドバイス：TOEIC-IP 400点クリアを目指し、自宅課題を指定する。期日までに授業外で各自、課題の消化が必要である。語彙や聴解は、授業で登録するTOEICの e-learningシステム（リンガポルタ）を利用して学習すること。語法や文法、聴解は、教科書（紙）を通して学習すること。なお、期間中、教科書や配布プリントを範囲とする小テストを実施する。授業開始後の入室は、学習の妨げになるので慎むこと。60分以上の遅刻は欠課扱いとする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション, e-learningシステム（教科書）及びTOEICの説明			授業の形式・進度, 教科書の使い方, リンガポルタの登録, 小テスト, 受講上の留意点について把握する。	
		2週	Unit 1 Restaurant			外食の際に必要な英語を理解する。	
		3週	Unit 1 / Unit 3 Shopping			買い物に必要な英語を理解する。	
		4週	Unit 3 Shopping			"	
		5週	Unit 5 Hospital / TOEIC-IP事前準備: 模擬ハーフテスト			TOEICの模擬テストを受験することで、傾向を把握し、対策を立てる。	
		6週	プレゼンテーション①			各自、発表の準備を行なった上で、その成果を示す。	

		7週	プレゼンテーション② / Quiz ①	"
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	中間試験の答案返却と解説 / Unit 7 Transportation	
		10週	Unit 7 Transportation	交通機関の利用の際に必要な英語を理解する。
		11週	Unit 9 Office Issues	オフィスでの仕事に関する英語を理解する。
		12週	Unit 9 Office Issues	"
		13週	プレゼンテーション①	各自, 発表の準備を行なった上で, その成果を示す。
		14週	プレゼンテーション② / Quiz ②	"
		15週	(期末試験)	
		16週	期末試験の答案返却と解説 / 原稿の返却 / まとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	40	30	0	0	15	15	100
基礎的能力	40	30	0	0	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	日中比較文化論	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：特になし（プリント配付），参考書：『中国語学習&異文化理解ハンドブック』（アルク）						
担当教員	杉山 明						
到達目標							
学習目的：文化的偏見を捨て，今後さらに発展するであろう日中交流に寄与できる能力を身につける。							
到達目標 1．中国社会の，日本とは違った側面を理解する。 2．他文化の存在を理解し、またそれを許容する視点を身につける。 、考えを、論理的に説明することができる。							
3．事故の主張							
ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目1	自分たちと異なる文化を理解，許容しそれとの協力，共生の心を持つことが出来る。	自分たちと異なる文化を理解，許容しすることが出来る。	自分たちと異なる文化を理解，許容しすることが出来る。	自分たちと異なる文化を理解，許容することが出来ない			
評価項目2	隣国中国の文化，社会事情を理解し，日本及び日本人の採るべき思考，行動を考えることが出来る。	日本との比較を通じて，隣国中国の文化，社会事情を理解することが出来る。	日本との比較を通じて，隣国中国の文化，社会事情を理解することが出来る。	隣国中国の文化，社会事情を理解することが出来ない。			
評価項目3	自己の主張，考えを，情熱と説得力を持って記述することが出来る。	自己の主張，考えを，情熱を持って記述することが出来る。	自己の主張，考えを，情熱を持って記述することが出来る。	自己の主張，考えを，うまく記述することが出来ない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：人文・社会 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：中国語／東洋史／中国哲学／中国文学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「（４）プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力をを身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（Ｂ）地球的視野に立った人間性の育成，Ｂ－２：地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し，説明できること」であるが、付随的には「Ｂ－１」にも関与する。 授業の概要：伝統的な中国文化とともに現代中国事情を解説する。適宜，課題図書も与える。						
授業の進め方・方法	授業の方法：1 5 週を後期に集中して行う。1 回の授業の中で，中国文化に関連するテーマひとつを講義する。試験は中間考査と期末考査の2 回実施する。レポートも2 本課す予定。 成績評価方法：2 回の試験の結果が70%，課題レポート2 本で30%の比重とする。課題レポートは，中国語および中国社会をどれだけ理解し，かつ自身とは異なった価値観をどの程度許容する視点を身につけることができたかが評価の基準となる。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として1 5 単位時間開講するが，これ以外に3 0 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：学士の認定を受けるためには必要な講座なので，その点をよく理解して受講すること。 基礎科目：世界史（1 年），政治経済（2 ），国際文化論（4 ），人間と歴史（5 ） 関連科目：国際コミュニケーション演習(専1 年)，社会科学概論(専2) 受講上のアドバイス：平素から中国に関係する新聞やテレビ等の報道やニュースに関心を払うことが大切である。遅刻時間が20分を過ぎれば欠課扱いとする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	なぜ中国を学ぶか		中国研究の必要性を理解する。		
		2週	地理と言語，民族等		中国の地理と言語，民族等を理解する。		
		3週	戦後中国の歴史と文化大革命		戦後中国の歴史と文化大革命の実態を理解する。		
		4週	国家意識と一族主義		中国人の国家意識と一族主義を理解する。		
		5週	中華思想 儒家と道家		中華思想 儒家と道家について理解する。		
		6週	性悪説と性善説 歴史観		性悪説と性善説、および中国人の 歴史観を理解する。		
		7週	中間試験		これまでの学習内容の理解度を確認する。		
		8週	中間試験の返却と解説		これまでの学習理解の足りない部分を補う。		
	4thQ	9週	一人っ子政策と高齢化問題 参考文献の購読，課題レポートの作成		中国の一人っ子政策と高齢化問題を理解する。参考文献を購読し，課題レポートを作成する。		

	10週	格差社会	中国社会の抱える格差問題について理解する。
	11週	台湾と香港	台湾と香港の歴史、上記用について理解する。
	12週	環境破壊	中国の環境問題を理解する。
	13週	偽ブランド	中国に於ける偽ブランド、商標辛亥問題を理解する。
	14週	中国企業の現在 参考文献の購読，課題レポートの作成	特に中国の国営企業の現状を理解する。参考文献を購読し，課題レポートを作成する。
	15週	期末試験	これまでの学習内容の理解度を確認する。
	16週	期末試験の返却と解説	これまでの学習理解の足りない部分を補う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	生命工学
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：指定せず,授業中に適時参考資料を配布する。参考書：講談社「バイオテクノロジーテキストシリーズ 遺伝子工学」実教出版「生命科学のための基礎シリーズ 先端技術と倫理」					
担当教員	前澤 孝信					
到達目標						
学習目的：遺伝子工学がどのような技術に基づくのか, どのようなことに貢献するのかを学ぶとともに, 自らの分野へどう応用できるのかを考える。						
到達目標： 1. 生物に共通した遺伝情報のもととなる核酸の性質について理解する。 2. 核酸を用いた遺伝子工学技術について理解する。 3. 遺伝子工学技術の発展がもたらす倫理的問題を理解する。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	生物に共通した遺伝情報となる核酸の性質を理解し, その利点を説明できる。	生物に共通した遺伝情報となる核酸の性質について説明できる。	生物に共通した遺伝情報となる核酸の性質について理解している。	生物に共通した遺伝情報となる核酸の性質について理解していない。		
評価項目2	核酸を用いた遺伝子工学技術について理解し, 生活の中でどのように役立つのか説明できる。	核酸を用いた遺伝子工学技術について説明できる。	核酸を用いた遺伝子工学技術について理解している。	核酸を用いた遺伝子工学技術について理解していない。		
評価項目3	遺伝子工学の利点と倫理的問題点を理解し, 我々の生活とどのように関係するか説明できる。	遺伝子工学の利点と倫理的問題点を説明できる。	遺伝子工学の利点と倫理的問題点を理解している。	遺伝子工学の利点と倫理的問題点を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：一般・自然科学系基礎・共通 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：生物学／生物科学 学科学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(1)数学, 物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め, 機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」である。 授業の概要：生命工学は, 生物学のみならず医学や農学をはじめとした生命科学分野に大きな貢献をしている。その中心となる技術が遺伝子工学であり, 近年iPS細胞の作成により注目度を増している。本講義では, 遺伝子工学についての基本的説明からその技術の応用に至るまで体系的に解説する。					
授業の進め方・方法	授業の方法：配布資料をもとに板書等により解説しながら要点を解説する。適時, 授業内容に即したレポート課題を出し, 復習と自主学習を促す。なお, 本科目は前期開講科目である。 成績評価方法：期末試験の得点 (70%) に, 各定期試験までのレポートをこれに加味 (30%) して評価する。再試験は実施しない。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として1 5 単位時間開講するが, これ以外に3 0 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：生物学の基礎知識がなくても理解できるよう, 基礎的な事柄から説明するので, 少しでも興味があれば受講してもらいたい。 基礎科目：化学Ⅰ (2 年), 化学Ⅱ (3 年), 生命科学Ⅰ (4 年), 生命科学Ⅱ (5 年) 関連科目：化学特論 (4 年) 受講上のアドバイス：レポート課題は期限を厳守すること。授業の時間の半分を経過した時点で欠席として扱う。講義やそれに関連したことで疑問があれば, 積極的に質問し, 理解を深めて欲しい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス：生命工学とは		1.生物の定義	
		2週	生命の最小単位, 細胞		2.細胞の構造	
		3週	生命の設計図、核酸		3.DNA, RNAの構造	
		4週	セントラルドクマ		4.遺伝子からタンパク質まで	
		5週	転写因子		5.遺伝子の転写の仕組み	
		6週	DNA増幅法 (PCR法)		6.PCR法の仕組みと応用	
		7週	DNA配列決定法		7.DNA配列決定法の仕組み	
		8週	DNA型鑑定		8.DNA型鑑定法の仕組み	
	2ndQ	9週	遺伝子組換え		9.遺伝子配列組換え法の仕組み	
		10週	ES細胞		10.ES細胞の確立方法と倫理的問題	
		11週	iPS細胞		11.iPS細胞の作成法と倫理的問題	

		12週	遺伝子診断, 治療	12.遺伝子治療法と倫理的問題
		13週	不妊治療	13.不妊治療法と倫理的問題
		14週	遺伝子組換え生物の応用例	14.農業, 産業界での応用例
		15週	(前期期末試験)	
		16週	前期期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	課題	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	線形代数学	
科目基礎情報							
科目番号	0003			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	ベクトル空間からはじめる抽象代数入門, 松田修, 森北出版						
担当教員	松田 修						
到達目標							
本講では、 n 次元 n 数ベクトル空間の理論を学習する。特に、ジョルダン標準形、四元数、群などの新しい概念を学ぶ。 n 次元 n 数ベクトル空間の理論の基本的な考え方を身につける。 1. n 次元数ベクトル空間が理解できる。 2. 内積や距離の概念が理解できる。 3. 行列の種類による空間の変形の違いを幾何学的に説明できる。 4. 表現行列と基底変換について説明できる。 5. ジョルダン標準形の考え方がわかる。 6. 四元数と空間の回転が理解できる。 7. 群の考え方と線形表現の考え方が理解できる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	n 次元数ベクトル空間が十分理解できている。		n 次元数ベクトル空間が7割程度理解できている。		n 次元数ベクトル空間が6割程度理解できている。		n 次元数ベクトル空間がだいたい理解できていない。
評価項目2	内積や距離に関する十分理解ができている。		内積や距離に関する理解が7割程度できている。		内積や距離に関する理解が6割程度できている。		内積や距離に関する理解ができていない。
評価項目3	行列の種類による空間の変形の違いを幾何学的に精密に説明できる。		行列の種類による空間の変形の違いを幾何学的に7割程度説明できる。		行列の種類による空間の変形の違いを幾何学的に6割程度説明できる。		行列の種類による空間の変形の違いを幾何学的に説明できない。
評価項目4	表現行列と基底変換について精密に説明できる。		表現行列と基底変換について7割程度説明できる。		表現行列と基底変換について6割程度説明できる。		表現行列と基底変換について説明できない。
評価項目5	ジョルダン標準形の考え方が十分わかっている。		ジョルダン標準形の考え方が7割程度わかっている。		ジョルダン標準形の考え方が6割程度わかっている。		ジョルダン標準形の考え方がわかっていない。
評価項目6	四元数と空間の回転が十分理解できている。		四元数と空間の回転が7割程度理解できている。		四元数と空間の回転が6割程度理解できている。		四元数と空間の回転がおおよそ理解できていない。
評価項目7	群の考え方と線形表現の考え方が十分理解できている。		群の考え方と線形表現の考え方が7割程度理解できている。		群の考え方と線形表現の考え方が6割程度理解できている。		群の考え方と線形表現の考え方が理解できていない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	基礎となる学問分野: 数物系科学／数学／代数学・幾何学 本科目は専攻科学習目標「(1) 数学, 物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め, 機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける」に相当する科目である。 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化, A-1: 工学に関する基礎知識として, 自然科学の幅広い分野の知識を修得し, 説明できること」である。						
授業の進め方・方法	最初に基本的な知識を例を用いて説明する。その後, 理解のための演習課題を提示し, グループ学習を行う。 定期試験 (50%) とレポート, 小テスト (50%) の合計で評価する。						
注意点	本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが, これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 線形代数をより深く理解し, さらにその応用を考えていきたいと思っている学生向けの講座である。 基礎科目: 基礎線形代数 (2年), 微分方程式 (3), 数学統論 (4) 関連科目: 専門科目多数 グループ学習を重視するので, 遅刻や欠席はしないこと。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス,次元について (導入)				
		2週	n 次元空間数ベクトル空間			n 次元空間数ベクトル空間	
		3週	内積とグラムシュミットの直行化法			内積とグラムシュミットの直行化法	
		4週	行列による空間の変形 1			行列による空間の変形	
		5週	行列による空間の変形 2			行列による空間の変形	
		6週	表現行列と座標の関係			表現行列と座標の関係	
		7週	次元定理			次元定理	
		8週	中間試験			基礎事項確認	
	2ndQ	9週	ジョルダン細胞			ジョルダン細胞	
		10週	ジョルダン分解			ジョルダン分解	
		11週	群の考え方			群の考え方	
		12週	群の線形表現			群の線形表現	
		13週	複素数と四元数			複素数と四元数	
		14週	四元数と回転			四元数と回転	
		15週	前期末試験			基礎事項確認	
		16週	答案の返却と解答解説, 数学書の読み方			基礎事項確認	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	情報科学
科目基礎情報						
科目番号	0004		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	HTML5による物理シミュレーション					
担当教員	寺元 貴幸					
到達目標						
学習目的：物理シミュレーションの基礎を体系的に学習し背景にある基礎概念や、可視化技術およびHTML5とその操作法や設計法について学ぶ。講義に基づいて、各自が実際に検討・設計する。さらに、実際のコンピュータ演習により、具体的な応用技術を学ぶ。						
到達目標						
1. 物理シミュレーションの基礎を体系的に理解し計算できる。 2. HTML5を科学コミュニケーションのツールとして利用することができる。 3. 与えられた課題に対して適切な技術・ツール等を使って問題を解決することができる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	物理シミュレーションの基礎を体系的に理解し、他人に説明したり応用ができる。	物理シミュレーションの基礎をある程度理解し、応用するための準備ができる。	物理シミュレーションの基礎を必要最低限理解し、基礎的な問題なら解決できる。	物理シミュレーションの基礎を体系的に理解できず、他人に説明したり応用することができない。		
評価項目2	HTML5を科学コミュニケーションのツールとして応用することができる。	HTML5を科学コミュニケーションのツールとして理解し、ある程度利用することができる。	HTML5を科学コミュニケーションのツールとして理解し、必要最低限の利用ができる。	HTML5を科学コミュニケーションのツールとして利用することができない。		
評価項目3	与えられた課題に対して適切な技術・ツール等を使って問題を模範的に解決することができる。。	与えられた課題に対して適切な技術・ツール等を使って問題をある程度解決することができる。	与えられた課題に対して適切な技術・ツール等を使って問題を必要最低限解決することができる。	与えられた課題に対して適切な技術・ツール等を使って問題を解決することができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 情報と計測・制御 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：情報科学、情報工学およびその関連分野／計算科学関連 学科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(2)専門分野技術の知識を修得し、機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化、A-1：工学に関する基礎知識として、自然科学の幅広い分野の知識を修得し、説明できること」であるが、付随的には、「A-2」および「C-1」にも関与する。 授業の概要：コンピュータや通信技術の発展により、さまざまな分野においてコンピュータが組み込まれ、システムのIT（情報技術）化は不可欠なものとなってきた。本講義では、情報システムを構築する上で、重要な技術である実世界の情報をコンピュータ内に記述するための物理シミュレーション技術を中心に基礎的な情報技術の修得をめざす。					
授業の進め方・方法	授業の方法：演習を中心に授業を進める。情報処理に必要とされる知識全般が習得できるよう演習を進める。また、理解が深まるようレポートを課す。さらにまとめた情報を整理発表できるようプレゼンテーションや発表を行う。 成績評価方法：演習の計画性と実施状況、課題の提出状況 50％， プレゼンテーションと議論への参加態度 40％ 発表・提出された課題を学生が相互に評価した結果 10％					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：各自の研究活動に生かせるよう心掛けてほしい。 基礎科目：各学科の情報処理に関連する科目および演習 関連科目：工学倫理（専1年）、情報処理基礎演習Ⅰ（専1年）、情報処理基礎演習Ⅱ（専1年）、情報処理応用演習Ⅰ（専1年）、情報処理応用演習Ⅱ（専1年）、数値解析特論（専2年） 受講上のアドバイス：内容はそれぞれ独立しており、どこからでも自学独習ができるような構成になっている。科目の性格上、必ずしもすべての項目にわたって精通する必要はないが、技術者が報告書や論文を作成する場合や学会発表を行う際に必要な情報処理技術が中心となっている。自分のテーマにあわせて必要部分を深化させてほしい。演習環境に慣れると同時に、各研究室でも同様の演習が行える環境を整備する努力が必要である。 遅刻の扱い：授業開始時の出席確認以降の入室は遅刻として扱う。なお、1時限の半分の時間経過後は欠課として扱う。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	概要説明および情報処理基礎演習Ⅰとの情報交換〔ガイダンス〕			
		2週	演習システムへの登録作業及び個人情報・演習環境の設定作業〔設定〕			

		3週	3次元コンピュータグラフィクス入門（3次元オブジェクト）	
		4週	3次元コンピュータグラフィクス入門（プリミティブオブジェクト）	
		5週	3次元コンピュータグラフィクス入門（影と光源）	
		6週	2次元グラフィック描写入門（jqPlotの基本形）	
		7週	2次元グラフィック描写入門（jqPlotのオプション）	
		8週	物理シミュレーション（環境設定）	
	4thQ	9週	物理シミュレーション（基本的な考え方）	
		10週	物理シミュレーション（3次元空間中の物体）	
		11週	物理シミュレーション（等速運動のアルゴリズム）	
		12週	物理シミュレーション（加速度運動のアルゴリズム）	
		13週	物理シミュレーション（高精度の計算アルゴリズム）	
		14週	物理シミュレーション（ニュートンの運動方程式）	
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	プレゼンテーション	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	0	40	10	0	50	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	40	10	0	50	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	環境科学
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：授業中にプリント資料を配布する。参考書：御代川喜久夫 「環境科学の基礎 改訂版」（培風館）					
担当教員	小林 敏郎					
到達目標						
学習目的：地球環境問題の現状と対策を理解する。また、演習やレポートを通じて、種々の学問・技術の総合応用力、複眼的思考による問題設定能力、公衆の健康・安全、倫理等の観点から問題点を認識する能力を養う。						
到達目標： 1. 地球のエネルギー資源について理解し、説明できる（化石燃料，核エネルギー，更新性エネルギーなど） 2. 地球の環境問題について理解し、説明できる（大気汚染，酸性雨，地球温暖化など） 3. 環境管理について理解し、説明できる（生態系破壊，水圏汚染，化学物質） 4. 環境問題の指標であるCO2の排出量の計算ができる						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1		・地球のエネルギー資源について理解し、それらの功罪を比較説明できる（化石燃料，核エネルギー，更新性エネルギーなど）	・地球のエネルギー資源について理解し、説明できる（化石燃料，核エネルギー，更新性エネルギーなど）	・地球のエネルギー資源の基本について理解し、説明できる（化石燃料，核エネルギー，更新性エネルギーなど）	・地球のエネルギー資源について、説明できない（化石燃料，核エネルギー，更新性エネルギーなど）	
評価項目2		・地球の環境問題について理解し、課題の打ち手が議論できる（大気汚染，酸性雨，地球温暖化など）	・地球の環境問題について理解し、説明できる（大気汚染，酸性雨，地球温暖化など）	・基本的な地球の環境問題について理解し、説明できる（大気汚染，酸性雨，地球温暖化など）	・地球の環境問題について、説明できない（大気汚染，酸性雨，地球温暖化など）	
評価項目3		・環境管理について理解し、課題の打ち手が議論できる（生態系破壊，水圏汚染，化学物質）	・環境管理について理解し、説明できる（生態系破壊，水圏汚染，化学物質）	・基本的な環境管理について理解し、説明できる（生態系破壊，水圏汚染，化学物質）	・環境管理について、説明できない（生態系破壊，水圏汚染，化学物質）	
評価項目4		・環境問題の指標であるCO2の排出量の計算が出来る，考察ができる	・環境問題の指標であるCO2の排出量の計算ができる	・環境問題の指標であるCO2の排出量の基本的な計算方法を知っている	・環境問題の指標であるCO2の排出量の計算方法がわからない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：自然科学系基礎・共通					
	必修・選択の別：選択					
	基礎となる学問分野：理工系/工学/総合工学/地球・資源システム工学					
	専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(1)数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身に付けていること」に相当する科目である。					
	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化，A－1工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「B－1」および「G－1」にも関与する。					
授業の進め方・方法	授業の概要：温暖化，オゾン層破壊などに代表される地球環境の悪化は，人類の経済活動の活発化などに伴い進行していると考えられており，これら地球環境問題の実態について外国文献も利用して学ぶ。次に，国連，各国政府および各国宇宙機関の取り組み，具体的な環境保全の対策などについて理解を深める。					
	授業の方法：配布プリント，プロジェクトおよび板書により授業を進める。授業では外国文献も教材として使用する。また，学生の理解度を確認するために随時質問を行う。さらに，演習を行わせることで理解度を高めるとともにレポートを課すことで学生の技術者としての環境問題に対する自覚を養成する。					
	成績評価方法：レポート課題は，指定した期日までに必ず提出すること。試験(70%)「原則1回であるが，状況により再試験を行うことがある。再試験は本試験と同等に評価する」。レポート課題，演習の配点は30%とする。なお，試験には，自筆ノート，配布プリント，電卓の他，講義で使用した原稿をプリントアウトしたものを持込可とする。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。					
	履修のアドバイス：最新の環境に関する法律やデータが，環境省のホームページを始めとして種々のホームページ上で公開されているので，随時閲覧して，自身の知見を広げることが望ましい。					
	基礎科目：環境工学（5年） 関連科目：数理科学Ⅱ（5年），生命科学Ⅱ（5），科学探求（専2） 受講上のアドバイス：環境に関する情報は国連や環境省のホームページをはじめとして種々のホームページで公開されているので，随時閲覧して，自身の知見を広げることが望ましい。『本科目は環境教育ならびに原子力コア人材育成関連科目である。』授業開始時に着席していない場合，遅刻とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	●ガイダンス，地球の環境問題の概要，地球環境の成り立ち		地球環境の成り立ちが説明できる。	
		2週	●資源Ⅰ〔エネルギーと環境〕		エネルギーと環境の関係が説明できる。	
		3週	●資源Ⅱ〔化石燃料と環境〕		化石燃料と環境の関係が説明できる。	
		4週	●資源Ⅲ〔核エネルギーと環境〕		核エネルギーと環境の関係が説明できる。	

		5週	●資源Ⅳ〔更新性エネルギー〕 レポート課題（１） 「環境・エネルギー問題の現状と課題」（各人それぞれ 異なった調査項目を選択）	更新性エネルギーについて説明できる。
		6週	●地球科学の基礎	地球科学の基礎について説明できる。
		7週	●環境管理Ⅰ〔大気汚染〕	大気汚染のメカニズムと対策が説明できる。
		8週	●環境管理Ⅱ〔酸性雨〕	酸性雨のメカニズムと対策が説明でき
	4thQ	9週	●環境管理Ⅲ〔地球温暖化①／温室効果ガス〕 レポート課題（２）「自宅でのエネルギー消費量と CO2排出量の調査検討」	温室効果ガスについて説明できる。
		10週	●環境管理Ⅳ〔地球温暖化②／予測と対策〕	地球温暖化のメカニズムと予測手法について説明できる。 対策〕
		11週	●環境管理Ⅴ〔生態系の破壊〕	生態系の破壊について説明できる。
		12週	●環境管理Ⅵ〔水圏の汚染〕	水圏の汚染，循環について説明できる。
		13週	●環境管理Ⅶ〔化学物質〕	化学物質と環境について説明できる。
		14週	●環境管理Ⅳ〔ごみとリサイクル〕 レポート課題（３）「CSR環境レポートの調査および 作成」	ごみとリサイクルについて説明できる。
		15週	（期末試験）	出席し答案を提出する。
		16週	期末試験の答案返却と解答解説	誤答問題を修正する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	実験法の科学	
科目基礎情報							
科目番号	0006			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし（ノート講義） 参考書：濱田ほか「実験科学とその方法」（放送大学教育振興会）						
担当教員	河合 雅弘						
到達目標							
学習目的：適切で信頼性の高い実験を行えるようになるために、実験を通した自然認識の方法や各種の実験に関わる技術を理解する。							
到達目標 1. 物理量や単位変換，次元解析の手法を理解し，説明できる。 2. 実験データに関する誤差や統計的手法の技術を理解し，説明できる。 3. 実験を通した自然認識の方法を理解し，説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	物理量や単位，次元解析の手法を十分理解し，分かり易く具体的に説明できる。		物理量や単位，次元解析の手法を理解し，具体的に説明できる。		物理量や単位，次元解析の手法を理解し，概要を説明できる。		左記に達していない。
評価項目2	実験データに関する誤差や統計的手法の技術を十分理解し，分かり易く具体的に説明できる。		実験データに関する誤差や統計的手法の技術を理解し，具体的に説明できる。		実験データに関する誤差や統計的手法の技術を理解し，概要を説明できる。		左記に達していない。
評価項目3	実験を通した自然認識の方法を十分理解し，具体的な事例で分かり易く説明できる。		実験を通した自然認識の方法を理解し，具体的に説明できる。		実験を通した自然認識の方法を理解し，概要を説明できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：自然科学系基礎・共通 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：応用物理学・工学基礎/工学基礎 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(1) 数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A－1：工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「A－2，A－3」にも関与する。 授業の概要：実証と再現性を重んじる自然科学で，実験は最も重要な自然認識手段の一つである。また，高専では実技を重視するカリキュラム体系がとられている。そこで，実験や観察について，その意義や視点，典型的な手法・技術・考え方・約束事項等の共通事項を取り上げ，事例を示しながら学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心に講義を行う。理解が深まるよう学習の進度にあわせて演習プリントによる演習や小テストを実施する。レポート課題も課す。また，中間試験を行う。 成績評価方法： 定期試験（中間，期末の各試験）を同等に評価する（70％）。演習プリント・小テストおよびレポート課題（30％）を評価に加える。定期試験が60点未満の学生に対し，担当教員が必要と判断した場合は再試験を行う。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：自分の専門以外の分野に関する内容も扱うことがあるが，幅広い分野の知識を修得するために積極的に取り組むこと。 基礎科目：本科における各工学実験（2～5年），応用物理Ⅰ（3），応用物理Ⅱ（4），計測工学（機械5，電子制御5），電気電子計測（電気電子5） 関連科目：機械・制御システム特別研究ⅠおよびⅡ（専1年，専2年），電子・情報システム特別研究ⅠおよびⅡ（専1，専2），機械・制御システム特別実験（専1），電子・情報システム特別実験（専1） 受講上のアドバイス：講義の中ではいろいろな事例について検討し，その考え方を学べるように授業を進める。そのため，自分の専門以外の分野に関する内容でも，技術者としての視野を広げる意味で，興味を持って取り組んで欲しい。遅刻は授業時間の1時限目の半分までとし，それを過ぎるとその時限を欠課とする。2時限目も同様に扱う。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス，自然科学と実験について ・授業概要 ・自然科学における実験の役割				
		2週	実験の方法 ・実験の種類と方法				
		3週	物理量と単位変換 ・物理量とSIの基本単位 ・単位変換				

		4週	次元解析 ・単位と次元 ・次元解析の方法	
		5週	実験データの分析〔誤差〕 ・誤差について ・正規分布と標準偏差	
		6週	実験データの分析〔統計的手法（１）〕 ・誤差の伝播 ・区間推定の方法	
		7週	実験データの分析〔統計的手法（２）〕 ・最小二乗法 ・相関	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	中間試験の返却と解答の説明	
		10週	自然科学の考え方〔歴史と発展〕 ・地動説からニュートン力学までの流れ ・暦の歴史と地動説	
		11週	自然科学の認識過程 ・仮説と実験 ・惑星の軌道とケプラーの法則	
		12週	法則性の導出 ・ケプラーの法則から万有引力の法則の導出	
		13週	自然科学の発展と課題 ・自然科学に対する批判 ・自然科学の課題	
		14週	科学教育について ・理科（科学）離れとその対策	
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の返却と解答の説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	工学倫理
科目基礎情報					
科目番号	0007	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書：林・宮澤他「技術者の倫理（改訂版）」コロナ社，参考書：加藤尚武「技術と人間の倫理」NHKライブラリなど				
担当教員	宮下 卓也, 細谷 和範				
到達目標					
学習目的： 工学倫理や技術者倫理の必要性を理解するとともに，今後技術者として活動していく上での基本的な責任感を身につける。					
到達目標： ・技術者が社会に負っている責任と独創性を認識し，技術の成果が社会に受け入れられるように配慮することができる。 ・技術者倫理が必要とされる歴史のおよび社会的背景や重要性を理解し，社会における技術者の役割と責任を説明できる。 ・説明責任・内部告発・製造物責任・リスクマネジメントなど，技術者の行動に関する基本的事項を理解し，説明できる。 ・グループによる課題検討を通じて，当事者意識を持ち協調して共同作業をすすめることができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	技術者が社会に負っている責任と独創性を認識し，技術の成果が社会に受け入れられるように配慮することを理解・説明でき，さらに応用までできる。	技術者が社会に負っている責任と独創性を認識し，技術の成果が社会に受け入れられるように配慮することを理解し説明できる。	技術者が社会に負っている責任と独創性を認識し，技術の成果が社会に受け入れられるように配慮することの重要性を認識できる。	左記に達していない。	
評価項目2	技術者倫理が必要とされる歴史のおよび社会的背景や重要性を理解し，社会における技術者の役割と責任を理解・説明でき，さらに応用までできる。	技術者倫理が必要とされる歴史のおよび社会的背景や重要性を理解し，社会における技術者の役割と責任を理解し説明できる。	技術者倫理が必要とされる歴史のおよび社会的背景や重要性を理解し，社会における技術者の役割と責任の重要性を認識できる。	左記に達していない。	
評価項目3	説明責任・内部告発・製造物責任・リスクマネジメントなど，技術者の行動に関する基本的事項を理解・説明でき，さらに応用までできる。	説明責任・内部告発・製造物責任・リスクマネジメントなど，技術者の行動に関する基本的事項を理解し説明できる。	説明責任・内部告発・製造物責任・リスクマネジメントなど，技術者の行動に関する基本的事項の重要性を認識できる。	左記に達していない。	
評価項目4	グループによる課題検討を通じて，当事者意識を持ち協調して共同作業をすすめることができ，討論のまとめ役となってメンバーをリードし，独自の意見を積極的に提示することができる。	グループによる課題検討を通じて，当事者意識を持ち協調して共同作業をすすめることができ，討論に積極的に参加し，複数回発言することができる。	グループによる課題検討を通じて，当事者意識を持ち協調して共同作業をすすめることができ，討論に参加することができる。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別： 専門， 自然科学系基礎・共通 必修・選択の別： 選択 基礎となる学問分野： 工学倫理・技術者倫理 専攻科学習目標との関連： 本科目は専攻科学習目標「（５）工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに，広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。				
	技術者教育プログラムとの関連： 本科目が主体とする学習・教育目標は「(G)技術者倫理の理解，G-1：倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め，技術者として社会に対する責任を自覚し，説明できること」であるが，付随的には「B-1」にも関与する。 授業の概要： 現代社会は多くの技術の上に成り立っており，技術の使い方を誤ると，社会や自然に重大な危機をもたらすことがある。このため，技術者は自分が扱う技術がどのような意味を持つかを正しく理解し，社会や自然にとって有用なものとする責任を持たなければならない。この観点から工学倫理全般を扱う。				
授業の進め方・方法	授業の方法： 主に機械・制御と電子・情報分野の事例研究を通して，板書・プロジェクタ・討議・発表等の多様な方法で授業を進める。自分で考え，調べ，積極的に意見交換を行うことを必要とする。 成績評価方法： 前半(宮下)と後半(細谷)の成績を均等に評価する。前半では，グループ報告書を40%，他者評価を含む個人報告書を60%で評価する。後半では，レポート課題を含む報告書を60%，グループディスカッションとプレゼンテーションを40%で評価する。				

注意点	履修上の注意： 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 1 5 単位時間開講するが、これ以外に 3 0 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
	履修のアドバイス： 技術者教育プログラムで必須となる内容を含む科目である。将来、技術者として活躍することを目指す人は必ず受講すること。『本科目は環境教育ならびに原子力コア人材育成関連科目である。』			
	基礎科目： 倫理（1 年）と工業倫理学（5）および工学全般にわたる科目ほか、社会・経済・自然・環境・企業などに関する基本的な知識			
	関連科目： 先端技術特別講義（専1,専2），特別研究（専1，専2），環境科学（専1），現代哲学（専2），生命工学（専1）など			
	受講上のアドバイス： 一般科目教員による工業倫理学（5）の概説を受けて、専門教員が教える本科目はいっそう実践的な技術者倫理教育を目指している。科学・技術、ものづくり、社会・経済、企業、地球環境等に関する幅広い視野が大切である。本科目は環境教育関連科目である。 本講義では、授業開始から30分未満の出席を遅刻とし、それ以降に出席しても欠席扱いとする。			

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	・ガイダンス ・授業時間外の学習内容：討議内容の報告（毎週）	
		2週	・討議課題およびグループ内役割分担の決定 ・授業時間外の学習内容：・討議内容に基づく調査と整理（毎週）	
		3週	・グループ討議 1〔議論ポイントの洗い出し〕 ・授業時間外の学習内容：・全体討議の準備	
		4週	・グループ討議 2〔全体討議に向けたまとめ〕 ・授業時間外の学習内容：個人報告書の作成（各自）	
		5週	・全体討議〔他者評価〕 ・授業時間外の学習内容：グループ報告書の作成（グループ内で役割分担）	
		6週	・全体討議を受けての再グループ討議 ・授業時間外の学習内容：	
		7週	・グループ討議のまとめ、報告書作成 ・授業時間外の学習内容：	
		8週	・ガイダンス ・授業時間外の学習内容：[討議のための予習]	
	2ndQ	9週	・ 4 章 歴史の中の技術者 ・ 授業時間外の学習内容：[討議のための予習，発表準備]	
		10週	・ 5 章 技術者倫理と企業倫理 ・ 授業時間外の学習内容：[討議のための予習，発表準備]	
		11週	・ 6 章 内部告発の倫理 ・ 授業時間外の学習内容：[討議のための予習，発表準備]	
		12週	・ 7 章 製造物責任，1 4 章 意図せざる技術流出 ・ 授業時間外の学習内容：[討議のための予習，発表準備]	
		13週	・ 8 章 知的財産と営業秘密 ・ 授業時間外の学習内容：[討議のための予習，発表準備]	
		14週	・ 1 1 章 研究の倫理 ・ 授業時間外の学習内容：・[グループ討議，レポート作成]](1)「科学技術と倫理的問題」 (2)「技術者のアイデンティティ」	
		15週	期末試験はレポートにより評価するため試験は実施しない。	
		16週	・ レポート指導	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	自己 評価	課題	グループ討議	合計	
総合評価割合	0	20	5	0	55	20	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	20	5	0	55	20	100	

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	20	0	0	80	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	情報処理応用演習I	
科目基礎情報							
科目番号	0009		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	寺元 貴幸						
到達目標							
学習目的：演習を通して情報処理技術を身につけるとともに、情報を判断したり評価するために必要な知識や技術を深化させる。							
到達目標							
1. 各自の研究テーマについて必要となるドキュメントを作成することができる。							
2. 各自の研究テーマについて表計算ソフトを活用してデータ整理や有効なグラフが作成できる。							
3. 与えられた課題に対して問題を解決することができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	各自の研究テーマに関して学会に投稿するレベルのドキュメントが作成できる。		各自の研究テーマに関して学会のフォーマットに沿ったドキュメントが作成できる。		各自の研究テーマに関してフォーマット変更したドキュメントが作成できる。		各自の研究テーマに関して目的に合わせたドキュメントを作成する事ができない
評価項目2	各自の研究テーマに関して表計算ソフトを活用して論文に利用できるレベルでデータ整理や有効なグラフ作成ができる。		各自の研究テーマに関して表計算ソフトを活用して一般的なデータ整理や有効なグラフ作成ができる。		各自の研究テーマに関して表計算ソフトを活用してある程度データ整理や有効なグラフ作成ができる。		各自の研究テーマに関して表計算ソフトを活用しても目的のデータ整理やグラフの作成がおこなえない。
評価項目3	与えられた課題に対してソフトウェアを十分に駆使し、問題を解決することができる。		与えられた課題に対してソフトを使用して問題を解決することができる。		与えられた課題に対してソフトを使用して、課題を解決する方法を提案することができる。		与えられた課題に対して課題を解決すること、また解決する方法を提案することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 情報・制御 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：情報科学、情報工学およびその関連分野／統計科学関連、計算機システム関連、ソフトウェア関連 学科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(2)専門分野技術の知識を修得し、機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「(C) 情報技術の修得、C－1：「(機械・制御システム技術者)・(電気・電子・情報技術者)に必要な情報技術を修得し、活用できること」であるが、付随的には、「A－1」および「C－2」にも関与する。 授業の概要：IT技術を利用した情報の検索、整理、管理統合、プレゼンテーション、情報発信などは現代の技術者のリテラシー能力である。本演習では、すでに基本的なリテラシー能力を習得した学生を対象に、さらに高度な応用技術やカスタマイズ能力、表現力を身につけるための演習を行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法：演習を中心に授業を進める。情報処理に必要とされる知識全般が習得できるよう演習を進める。また、理解が深まるようレポートを課す。さらにまとめた情報を整理発表できるようプレゼンテーションや発表を行う。 成績評価方法：演習の計画性と実施状況、課題の提出状況 50％， プレゼンテーションと議論への参加態度 40％ 発表・提出された課題を学生が相互に評価した結果 10％						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：情報処理基礎演習Ⅰと同時に履修する事はできないが、情報処理基礎演習Ⅱもしくは情報処理応用演習Ⅱを履修することは可能。 基礎科目：各学科の情報処理に関連する科目および演習 関連科目：工学倫理（専1年）、情報処理応用演習Ⅱ（専1年）、情報処理基礎演習Ⅱ（専1年） 受講上のアドバイス：内容はそれぞれ独立しており、どこからでも自学独習ができるような構成になっている。科目の性格上、必ずしもすべての項目にわたって精通する必要はないが、技術者が報告書や論文を作成する場合や学会発表を行う際に必要な情報処理技術が中心となっている。自分のテーマにあわせて必要部分を深化させてほしい。演習環境に慣れると同時に、各研究室でも同様の演習が行える環境を整備する努力が必要である。 遅刻の扱い：授業開始時の出席確認以降の入室は遅刻として扱う。なお、1時限の半分の時間経過後は欠課として扱う。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概要説明および情報処理基礎演習Ⅰとの情報交換〔ガイダンス〕				
		2週	演習システムへの登録作業及び個人情報・演習環境の設定作業〔設定〕				

		3週	ドキュメント作成の基礎技術（書式設定，文書スタイルの統一）の修得のための演習。	
		4週	ドキュメント作成の基礎技術（相互参照）の修得のための演習。	
		5週	ドキュメント作成の基礎技術（画像処理等）の修得のための演習。	
		6週	業務フローの作成演習。	
		7週	P D F ファイルの作成などフリーソフトウェアによる演習。	
		8週	表計算ソフトの基本技術の演習ならびにマクロ言語の演習①	
	2ndQ	9週	表計算ソフトの基本技術の演習ならびにマクロ言語の演習②	
		10週	表計算ソフトの応用例題の演習①	
		11週	表計算ソフトの応用例題の演習②	
		12週	表計算ソフトの応用例題の演習③	
		13週	総合的な課題の作成と発表①	
		14週	総合的な課題の作成と発表②	
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	プレゼンテーション	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	40	10	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	40	10	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	情報処理基礎演習II
科目基礎情報				
科目番号	0010	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書：配布資料			
担当教員	竹谷 尚			
到達目標				
学習目的： UNIXの体系やコマンドの基本やシェルスクリプトを修得する。 Visio(高度な機能を持つ図形作成ソフト)の初級習得				
到達目標： 1. UNIXの基礎を習得し、プログラミング環境を課題解決に活用できる。 2. 数式処理ソフトおよび物理シミュレーションソフトを活用することができる。。 3. Visioで電気回路、ネットワーク図などが作成できる。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	UNIX環境を課題解決に有効利用できる。	UNIXの基礎を修得し、プログラミング環境を活用できる。	UNIX上でのプログラミング環境を利用できる。	左記に達していない。
評価項目2	適切なソフトを活用して、課題解決ができる。	数式処理ソフトおよび物理シミュレーションソフトを活用することができる。	数式処理ソフトおよび物理シミュレーションソフトを利用することができる。	左記に達していない。
評価項目3	VISIOを各自の課題解決に活用できる。	VISIOを用いて電気回路およびネットワーク図などを作図できる。	VISIOを用いて基本的な電気回路およびネットワーク図などを作図できる。	左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別・学習の分野：専門・情報と計測・制御 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：総合領域/情報学/計算機システム・ネットワーク 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習教育到達目標は「(C)情報技術の取得、C-1：機械・制御システム技術者および電気電子・情報技術者に必要な情報技術を修得し、活用できること」であるが、付随的に「A-1」、「C-2」にも関与する。 授業の概要：情報処理基礎演習Iあるいは情報処理応用演習Iにおいて学修したコンピュータリテラシー能力を基礎として、学修や研究の場でのより高度なコンピュータ技術の基礎となるUNIXの体系やコマンドの基本的な技術について理解する。また、シェルスクリプトについても学ぶ。			
授業の進め方・方法	授業の概要：情報処理基礎演習Iあるいは情報処理応用演習Iにおいて学修したコンピュータリテラシー能力を基礎として、学修や研究の場でのより高度なコンピュータ技術の基礎となるUNIXの体系やコマンドの基本的な技術について理解する。また、シェルスクリプトについても学ぶ。 成績評価方法：各課題へ対する理解と成果（レポートと作品）80%+発表(相互評価) 20%			
注意点	履修上の注意：本科目は「時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として30単位時間開講するが、これ以外に15単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：前期に情報処理基礎演習Ⅱあるいは情報処理応用演習Ⅱのどちらを履修していても履修できます。 基礎科目：情報処理基礎演習Ⅰ（専1年）あるいは情報処理応用演習Ⅰ（専1） 受講上のアドバイス：授業開始20分以内であれば遅刻とし、遅刻3回で1欠課とする。			
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	
		2週	数式処理ソフトmaxima	数式処理ソフトmaxima
		3週	maximaによる数式処理方程式、連立方程式、行列、微積分	maximaによる数式処理方程式、連立方程式、行列、微積分
		4週	Phunによる物理シミュレーション（1）	Phunによる物理シミュレーション
		5週	Phunによる物理シミュレーション（2）	Phunによる物理シミュレーション
		6週	物理シミュレーション報告会	物理シミュレーション報告会
		7週	CentoOS入門	CentoOS入門
		8週	CentoOS上での環境整備	CentoOS上での環境整備
	4thQ	9週	CentoOS上でのCプログラミング（1）	CentoOS上でのCプログラミング
		10週	CentoOS上でのCプログラミング（2）	CentoOS上でのCプログラミング
		11週	CentoOS上でのCプログラミング（3）	CentoOS上でのCプログラミング
		12週	Unixに関する基礎知識、ジョブ制御、シェル	Unixに関する基礎知識、ジョブ制御、シェル
		13週	ファイルシステム、各種コマンド	ファイルシステム、各種コマンド
		14週	CentoOSによるシェルスクリプトプログラミング	CentoOSによるシェルスクリプトプログラミング
		15週	シェルによるファイル操作	シェルによるファイル操作

		16週	Visioの基本操作		Visioの基本操作		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	80	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	情報処理応用演習II	
科目基礎情報							
科目番号	0011			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	寺元 貴幸						
到達目標							
学習目的：実習を通して情報処理技術を身につけるとともに、情報を判断したり評価するために必要な知識や技術をさらに深化させる。							
到達目標							
1. 組み版システムを理解し、必要なドキュメントを作成することができる。 2. 組み版システムを利用するためのマニュアルを作成し、他人に使い方を説明することができる。 3. 論文等で作成する回路図やフローチャート・ガントチャート等を適切に作成することができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	組み版システムを理解し、学会に投稿できるレベルでドキュメントを作成することができる。		組み版システムを理解し、一般的なドキュメントを作成することができる。		組み版システムを理解し、必要なドキュメントをある程度作成することができる。		目的に合わせたドキュメントを作成する事ができない。
評価項目2	組み版システムを利用するためのマニュアルを作成し、他人に使い方を十分説明することができる。		組み版システムを利用するためのマニュアルを作成し、他人に使い方をある程度説明することができる。		組み版システムを利用するためのマニュアルを作成することができる。		組み版システムを利用するためのマニュアルを作成することができない。
評価項目3	与えられた課題に対して、回路図やフローチャート・ガントチャート等を適切に作成することができる。		与えられた課題に対して、回路図やフローチャート・ガントチャート等をある程度作成することができる。		与えられた課題に対して、回路図やフローチャート・ガントチャート等のいずれかを作成することができる。		与えられた課題に対して、回路図やフローチャート・ガントチャート等を作成することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 情報・制御 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：情報科学、情報工学およびその関連分野／統計科学関連、計算機システム関連、ソフトウェア関連 学科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(2)専門分野技術の知識を修得し、機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「(C) 情報技術の修得、C－1：「(機械・制御システム技術者)・(電気・電子・情報技術者)に必要な情報技術を修得し、活用できること」であるが、付随的には、「A－1」および「C－2」にも関与する。 授業の概要：本演習では、すでに基本的なコンピュータリテラシー能力を習得した学生を対象に、さらに高度なシステム管理能力や初学者への指導力、そして表現力を身につけるための演習を行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法：演習を中心に授業を進める。情報処理に必要とされる知識全般が習得できるよう演習を進める。また、理解が深まるようレポートを課す。 成績評価方法：演習の計画性と実施状況、課題の提出状況 50％，プレゼンテーションと議論への参加態度 40％ 発表・提出された課題を学生が相互に評価した結果 10％						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：情報処理基礎演習Ⅰと同時に履修する事はできないが、情報処理基礎演習Ⅱもしくは情報処理応用演習Ⅱを履修することは可能。 基礎科目：各学科の情報処理に関連する科目および演習 関連科目：工学倫理（専1年）、情報処理応用演習Ⅱ（専1年）、情報処理基礎演習Ⅱ（専1年） 受講上のアドバイス：コンピュータ・ネットワーク等に関する指導的・管理的役割を担える技術者を目指すこと。自主的に課題を見つけるテーマが多いので日頃から広く技術動向に注意を払っておくこと。科目の性格上、必ずしもすべての項目にわたって精通する必要はないが、技術者が情報収集や学会発表を行う際に必要な情報処理技術を中心に演習を行う。 遅刻の扱い：授業開始時の出席確認以降の入室は遅刻として扱う。なお、1時限の半分の時間経過後は欠課として扱う。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	概要説明〔ガイダンス〕				
		2週	TeXシステムの概要説明と学習環境の構築と演習①				
		3週	TeXシステムの概要説明と学習環境の構築と演習②				
		4週	組み版システムの歴史と技術に関する学習				
		5週	メタフォント並びにポストスクリプトフォントや画像ファイル（EPS他）の取り扱いに関する演習				

4thQ	6週	jLaTeXマニュアル作成演習①	
	7週	jLaTeXマニュアル作成演習②	
	8週	jLaTeXマニュアル作成演習③	
	9週	jLaTeXマニュアル作成演習④	
	10週	Visioによるフローチャートや各種設計図の作成①	
	11週	Visioによるフローチャートや各種設計図の作成②	
	12週	Visioによる各種設計図の講義準備	
	13週	Visioによる各種設計図の講義	
	14週	Visioによる各種設計図の講義	
	15週		
16週	演習のまとめと相互評価を行う		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	プレゼンテーション	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	40	10	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	40	10	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機械・制御システム特別実験	
科目基礎情報							
科目番号	0013		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	実験		単位の種別と単位数		履修単位: 4		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	通年		週時間数		4		
教科書/教材	指導書：各実験場所でプリントを個別に配布する。 参考書：機械系，電子制御系の専門教科書など。						
担当教員	野村 健作						
到達目標							
学習目的：学生実験は実験研究への訓練であるという認識のもと，基本的な実験手法や結果の解析法・考察力を修得することを目的とする。							
到達目標							
(1)課題解決のために他者と共通認識を形成しながら，組織的な取り組みができること。							
(2)実験計画立案の考え方や装置の取り扱い，およびデータ解析が適切にでき，工学的考察ができる。							
◎構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現する能力，およびこれらを報告書にまとめるコミュニケーション能力を習得する。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	・自発的に課題を探索し，より革新的・合理的な解答を導き出すことができる。 ・課題探索の過程で新しい問題を発見した時に，協力者と協議しながら問題に対応できる。		・社会の数々の事象に関連して，協力者との共通認識に基づいて，自発的に課題を設定し，探求できる。 ・協力者と共通認識を形成しながら，組織的な取り組みができる。		・社会の数々の事象に関連して，自発的に課題を設定し，探求できる。 ・協力者と共通認識を形成しながら，課題に取り組むことができる。		左記に達していない。
評価項目2	・文献やインターネット等で情報を収集するとともに，自らの専門知識を駆使し，実験データを的確に分析できる。 ・予想と反する結果に対して，原因を考察し的確な結論を導き出せる。		・実験内容を理解し，これに基づいて自ら適切かつ効率的な実験計画が立案できる。 ・実験装置と方法を理解し，実験の過程および結果を論理的に説明できる。		・実験内容および実験計画立案の考え方を理解できる。 ・実験装置を理解し，実験の過程や結果を説明できる。		左記に達していない。
評価項目3	・報告書の構成を立案し，実験方法や解析結果および考察を適切かつ簡潔にまとめることができる。 ・各種コンピュータソフトウェアを融合的に活用し，見やすく理解し易い報告書が作成できる。		・報告書の構成を自ら立案し，実験方法や解析結果を適切にまとめることができる。 ・各種コンピュータソフトウェアを適切かつ有効に活用し，構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現できる。		・報告書の基本的な構成を理解し，実験方法や解析結果をまとめることができる。 ・コンピュータソフトウェアを利用して，構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門・実験・実習						
	必修・履修・履修選択・選択の別：必修						
	基礎となる学問分野：工学／機械工学・電気電子全般						
	専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(3)特別実験の実践的学習を通じて，基礎学科に関連する知識理解を深化させると同時に，実験の遂行能力・データを解析・考察する能力を身につける」に相当する科目である。						
	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（D）課題解決能力の育成，D－3：課題解決のために他者と共通認識を形成しながら，組織的な取り組みができること」であるが，付随的には「A－3」，「C－1」，「D－1」にも関与する。						
授業の進め方・方法	授業の概要：機械システムは機械と制御技術が融合したものである場合が多く，機械と制御関連分野の知識を相互に理解しておかねばならない。このため，機械・制御システムに関する幅広い知識について実験を通じて確認する。						
	授業の方法：機械系学科と電子制御系学科の出身者が別々に行う実験と共通に行う実験，および課題解決のための取り組みとしてデザインプロジェクトがあるので注意すること。毎週の実験テーマは別途指示するのでそれに従うこと。デザインプロジェクトのテーマ設定や進め方，および実験の報告書の書き方や考察についても個別に指導する。						
	成績評価方法：いくつかの実験課題を提示し，各課題の内容理解や課題解決に組織的に取り組ませる。その中で，意見交換やディスカッションを通して，自己や他者の役割確認とそれぞれの役割を果たしたかどうかの判断をさせ，その結果を相互評価票や報告書などにまとめさせることによって評価する。また，実験（50%）およびデザインプロジェクト（50%）の総合平均点をもって可否を判定する。実験については，各担当教員が，実験レポートおよび実験装置の取り扱い等を総合的に判断して評価点を付けたものを各実験時間数で重み付け平均する。なお，全報告書の提出を必須とする。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。						
	履修のアドバイス：実験終了後は，とにかく早目に報告書作成に取り組むこと。						
	基礎科目：機械系および電子制御系学科の専門科目全般						
	関連科目：機械・制御システム工学専攻の専門科目全般						
受講上のアドバイス：デザインプロジェクトは，先延ばしにすることなく早目に取り組むこと。							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、実験場所の案内 デザイン・プロジェクト取組み課題の検討				

		2週	デザイン・プロジェクト取組み課題の検討、グループ分け作業	
		3週	以降、機械工学科出身者用／電子制御工学科出身者用、デザインプロジェクトの順に記述 電制実験Ⅱ-1／機械学実験 デザイン・プロジェクト取組み課題の検討	
		4週	電制実験Ⅱ-2／機械学実験 デザイン・プロジェクト第1回 グループディスカッション	
		5週	電制実験Ⅱ-3／機械学実験 デザイン・プロジェクト取組み課題の検討	
		6週	電制実験Ⅱ-4／制御実験 デザイン・プロジェクト取組み課題の検討	
		7週	電制実験Ⅱ-5／制御実験 デザイン・プロジェクト年間計画の策定	
		8週	熱工学実験／デザインプロジェクト年間計画の策定 デザインプロジェクト 第2回グループディスカッション	
	2ndQ	9週	熱工学実験／デザイン・プロジェクト年間計画の策定 デザイン・プロジェクト年間計画の策定	
		10週	電制実験Ⅱ-6／材料実験 デザイン・プロジェクトテーマ発表会の資料作成	
		11週	電制実験Ⅱ-7／材料実験 デザイン・プロジェクトテーマ発表会	
		12週	電制実験Ⅱ-8／材料実験 デザイン・プロジェクト調査・研究の推進	
		13週	電制実験Ⅱ-9／熱工学実験 デザインプロジェクト調査・研究の推進	
		14週	電制実験Ⅱ-10／熱工学実験 デザイン・プロジェクト調査・研究の推進	
		15週	制御実験／レポート指導 デザイン・プロジェクト 第3回グループディスカッション	
		16週	制御実験／デザイン・プロジェクト調査・研究の推進 デザイン・プロジェクト調査・研究の推進	
後期	3rdQ	1週	電制実験Ⅱ-11／流体力学実験 デザイン・プロジェクト調査・研究の推進	
		2週	デザイン・プロジェクト調査・研究の推進／流体力学実験 デザイン・プロジェクト調査・研究の推進	
		3週	電制実験Ⅱ-12／熱工学実験 デザイン・プロジェクト中間報告会の資料作成	
		4週	電制実験Ⅱ-13／熱工学実験 デザイン・プロジェクト中間報告会	
		5週	電制実験Ⅱ-14／機械工作法実験 デザイン・プロジェクト第4回グループディスカッション	
		6週	電制実験Ⅱ-15／機械工作法実験 デザイン・プロジェクト結果の分析	
		7週	レポート指導／機械工作法実験 デザイン・プロジェクト結果の分析	
		8週	デザイン・プロジェクト結果の分析／レポート指導 デザイン・プロジェクト結果の分析	
	4thQ	9週	電制実験Ⅱ-16／デザイン・プロジェクト成果報告書作成 デザインプロジェクト成果報告書の作成	
		10週	電制実験Ⅱ-17／デザイン・プロジェクト成果報告書作成 デザインプロジェクト成果報告書の作成	
		11週	電制実験Ⅱ-18／デザイン・プロジェクト成果報告書作成 デザインプロジェクト成果報告書の作成	
		12週	電制実験Ⅱ-19／デザイン・プロジェクト成果報告書作成 デザイン・プロジェクト 第5回グループディスカッション	
		13週	電制実験Ⅱ-20／デザイン・プロジェクト発表資料作成 デザイン・プロジェクト最終報告会の発表資料作成	
		14週	以降、機械工学科出身者・電子制御工学科出身者共通 デザイン・プロジェクト最終報告会準備 デザイン・プロジェクト最終報告会	
		15週	期末試験（本科目では試験は実施しない）	
		16週	デザイン・プロジェクト成果報告書・作業日誌・ディスカッション記録の提出	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	45	5	50	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	45	5	50	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機械・制御システム特別研究Ⅰ
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 8		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	8		
教科書/教材						
担当教員	井上 浩行,加藤 学,細谷 和範,趙 菲菲,野中 摂護,小林 敏郎,桶 真一郎					
到達目標						
学習目的：工学的あるいは技術的な課題を見出す能力，またその課題を具体的に解決する能力を修得し，技術者としての基本的な素養やデザイン能力を身につける。						
到達目標						
1. 専攻する技術分野について，ICTやICTツールを活用して情報を収集・分析して,先端技術の動向を把握するとともに，研究目的を理解する。 2. 研究遂行計画を主体的に立案するとともに，実験・解析を具体的に実行して結果の妥当性を評価できる。 3. 研究成果の学会等での発表や校外実習を通じて多くの技術者と自由に意見交換や交流ができる。 ◎ 4. 技術者が社会に負う責任を認識するとともに，企業活動を多面的に判断した対応力をもち，地域社会や広く世の中に貢献できる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	必要な情報の収集と整理・分析により関連の技術・研究動向が理解でき,これらと関連させて研究目的を理解できる。	自分で調査して得た文献・資料などをもとに,情報が正しいかどうか考え,活用できる。	自分で調査して得た文献・資料などの内容を言える。	自分で調査して得た文献・資料などの内容を言えない。		
評価項目2	工学上の問題解決のために特別な研究計画を立てることができ,データを分析し論理的に説明することができる。	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価方法・結果を論理的に説明することができる。	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価方		
評価項目3	効果的なプレゼンテーションの基本的なパターンを使って,制限時間内で,相手に分かりやすく説明した上で,自分の意見を効果的に伝えられる。	プレゼンテーションの基本的なパターンを使って,発表ができる。	プレゼンテーションの基本的なパターンを知っている。	プレゼンテーションの基本的なパターンを知らない。		
評価項目4	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し,技術者が社会に負っている責任を理解でき,自身の将来にわたるキャリアデザインを明確化し,多面的な基準から企業との適正を評価できる。	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し,技術者が社会に負っている責任を理解でき,技術者として成長していく自分を意識し,継続的な自己研さんができる。	技術者が社会に負っている責任を言える。	技術者が社会に負っている責任を言えない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：実験・実習					
	必修・履修・履修選択・選択の別：必修					
	基礎となる学問分野：工学／機械工学・制御工学					
	専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(4)特別研究を自主的，積極的に推進することにより，技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力，すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力，研究能力を身につけるとともに，研究結果を学会などで発表し，他の研究者や技術者との交流を通じて，プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。					
授業の進め方・方法	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(E) 研究能力の育成,E-1:工学現象を解析するための科学的な実験の計画・遂行・考察ができ，応用できること」であるが，付随的には「A-3」，「C-1」，「D-1」，「D-3」，「E-2」，「E-3」，「F-1」，「G-2」，「H-1」にも関与する。また，本科目ではデザイン能力の中の構想力，問題設定能力，公衆の健康・安全，文化，経済，環境，倫理等の観点から問題点を認識する能力，およびこれらの問題点などから生じる制約条件下で解を見出す能力，構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現する能力，継続的に計画し，実施する能力の育成に関与する。なお，本科目に関連して技術者倫理に関する講演会を必ず聴講すること。					
	授業の概要：特徴ある研究課題に取り組むことにより，自主的な問題発見能力と課題解決能力の養成を目的とし，知識の深化と研究開発能力を体得する。成果は中間発表概要として提出され，必要に応じて学会等での外部発表を行う。					
	授業の方法：指導教員のもとで，研究テーマごとに主体的に実験または解析的研究を行う。取り組みの中で，工学的研究の進め方，科学技術論文の書き方，発表・討論の仕方を適宜指導・助言する。					
成績評価方法：1年生では，授業計画で示されている条件を指導教員等により評価する。具体的には，テーマ発表会を専門的能力（10％），校外実習報告会（発表資料の提出と発表の実施）を分野横断的能力（10％）とする。ならびに中間発表の準備（概要，予稿）と技術者倫理講演会レポートで専門的能力（70％），校外実習報告書で分野横断的能力（10％）。評価に当たっては，教育プログラムの (A) および (C) ～ (H) の各項目に対して達成度を評価し，合計評価点の6割以上をもって合格とする。評価点が合格点に達しない場合は，指導を行い，再評価を行うことがある。						

注意点	履修上の注意：なし 履修のアドバイス：極めて多くの時間が割当てられている。与えられた環境の中で最大の成果が出るように、自主的に研究活動を行うこと。 基礎科目：これまで学習してきた科目全般 受講上のアドバイス：本科目は専攻科における最も重要な主となる科目である。したがって、あらゆる面で主体性を持って全力で取り組むことが求められる。また、2年では大学評価・学位授与機構から「学士」を取得する際に、「学修総まとめ科目履修計画書」と「学修総まとめ科目の成果の要旨等」の提出が必要である。これらはいずれも特別研究の内容が基盤となることを念頭に研究活動を進める必要がある。なお、前後期終了後に研究実施記録簿の提出を行うこと。
-----	---

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	研究テーマと研究計画	
		3週	研究テーマと研究計画	
		4週	研究テーマと研究計画	
		5週	研究テーマと研究計画	
		6週	研究テーマと研究計画	
		7週	研究テーマと研究計画	
		8週	研究テーマと研究計画	
	2ndQ	9週	テーマ発表会	
		10週	実験・解析の試行と検証	
		11週	実験・解析の試行と検証	
		12週	実験・解析の試行と検証	
		13週	実験・解析の試行と検証	
		14週	実験・解析の試行と検証	
		15週	実験・解析の試行と検証	
		16週	実験・解析の試行と検証	
後期	3rdQ	1週	実験・解析の試行と検証	
		2週	実験・解析の試行と検証	
		3週	実験・解析の試行と検証	
		4週	実験・解析の試行と検証	
		5週	実験・解析の試行と検証	
		6週	実験・解析の試行と検証	
		7週	実験・解析の試行と検証	
		8週	実験・解析の試行と検証	
	4thQ	9週	実験・解析の試行と検証	
		10週	実験・解析の試行と検証	
		11週	実験・解析の試行と検証	
		12週	実験・解析の試行と検証	
		13週	実験・解析の試行と検証	
		14週	実験・解析の試行と検証	
		15週	実験・解析の試行と検証	
		16週	実験・解析の試行と検証	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	70	0	80
分野横断的能力	0	10	0	0	10	0	20

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	エネルギーシステム工学	
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書： 配布プリント, 伝熱, 吉田駿「伝熱学の基礎」(理工学社), 参考書：斎藤孟「工業熱力学の基礎」(サイエンス社), 児島忠倫ほか「エース流体の力学」(朝倉書店) など						
担当教員	山本 吉範,細谷 和範						
到達目標							
学習目的：エネルギー変換や熱エネルギーに関する基本的な知識を習得するとともに、エネルギーの有効利用を考慮した機械設計法について理解を深める。							
到達目標： 1. 熱力学と流体力学で身に付けた専門知識を深化できる。 2. 理論サイクルの知識を深めるとともに、実際装置との対応を理解できる。 3. 伝熱の基本形態を理解し、各形態における伝熱機構を説明できる。 4. 熱交換器の伝熱設計法を修得する。							
ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目1	熱力学と流体力学で身に付けた専門知識を理解・説明でき、さらに応用まで深化できる。	熱力学と流体力学で身に付けた専門知識を理解し説明できる。	熱力学と流体力学で身に付けた専門知識を認識している。	左記に達していない。			
評価項目2	理論サイクルの知識を深めるとともに、実際装置との対応について理解・説明でき、さらに応用までできる。	理論サイクルの知識を深めるとともに、実際装置との対応について理解し説明できる。	理論サイクルと実際装置との対応について認識している。	左記に達していない。			
評価項目3	伝熱の基本形態を理解し、各形態における伝熱機構を理解・説明でき、さらに応用までできる。	伝熱の基本形態を理解し、各形態における伝熱機構を理解し説明できる。	伝熱の基本形態を理解し、各形態における伝熱機構を認識している。	左記に達していない。			
評価項目4	熱交換器の伝熱設計法を理解・説明でき、さらに応用までできる。	熱交換器の伝熱設計法を理解・説明できる。	熱交換器の伝熱設計法を認識している。	左記に達していない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門・エネルギーと流れ 学習目的：エネルギー変換や熱エネルギーに関する基本的な知識を習得するとともに、エネルギーの有効利用を考慮した機械設計法について理解を深める。 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学／機械工学／熱工学 専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(2)材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産・管理、機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し、機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化、A-2：「材料と構造」、「運動と振動」、「エネルギーと流れ」、「情報と計測・制御」、「設計と生産」、「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し、説明できること」である。付随的には「A-1」にも関与する。 授業の概要：本科で学習した熱力学と流体力学を基礎として、各種サイクルおよび熱伝導・熱伝達などについて概説する。身近なサイクルの性能評価法および熱エネルギー伝達を考慮した機械設計の基礎について解説を加える。						
授業の進め方・方法	授業の方法：授業は熱力学と流体力学に関する専門知識を確認しながら、板書やプロジェクター、卓上実験を交えて進める。実際問題への応用を考慮するとともに、演習問題を通して基礎理論の理解が深まるように配慮する。 成績評価方法：2回の試験成績を同等に評価し(70%)、これに演習、課題(レポート)、授業時間外の学習成果(30%)を加えた総合評価とする。試験には教科書(配布プリント)、自筆ノートの持ち込みを許可する。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。 履修のアドバイス：熱力学と流体力学の基礎知識が前提となる。 基礎科目：微分積分Ⅰ(2年)、熱力学Ⅰ・Ⅱ(M-4)、熱力学(S-4)、流体力学Ⅰ・Ⅱ(M-4)、流体力学(S-4) など 関連科目：機械・制御システム特別実験(専1年)、流体力学(専2) 受講上のアドバイス：授業の理解を深めるために授業中に行う演習や与えられた課題には、各自で自発的、積極的に取り組むこと。20分を越える遅刻は欠課とみなす。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	・講義の概要〔ガイダンス〕 ・授業時間外の学習：課題の予習と復習を課す。 課題(1)〔熱力学の基礎〕				
		2週	・熱力学の基礎(開いた系と閉じた系のエネルギー式、 ・ヒートポンプ) ・授業時間外の学習：課題(2)〔ヒートポンプ〕		熱力学の基礎を理解し説明できる。		

		3週	・空気標準サイクル（カルノーサイクル，ブレイトンサイクル等） ・授業時間外の学習：課題(3) [サイクルの熱効率]	空気標準サイクルを理解し説明できる。
		4週	・蒸気の性質（蒸気表，換算状態式など） ・授業時間外の学習：課題(4) [蒸気の状態]	蒸気の性質を理解し説明できる。
		5週	・蒸気サイクル①（ランキンサイクルの基礎） ・授業時間外の学習：課題(5) [蒸気サイクル]	蒸気サイクルを理解し説明できる。
		6週	・蒸気サイクル②（複合サイクル，多段サイクル） ・授業時間外の学習：課題(6) [複合サイクル]	蒸気サイクルを理解し説明できる。
		7週	・蒸気サイクルの応用 ・授業時間外の学習：課題(7) [ヒートパイプの応用]	蒸気サイクルを理解し説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	・講義の概要〔ガイダンス〕	
		10週	・伝熱の基礎方程式，熱通過 ・授業時間外の学習：演習課題(1)「熱伝導と熱通過」	伝熱の基礎方程式，熱通過を理解し説明できる。
		11週	・フィンの伝熱，熱交換器序論 ・授業時間外の学習：演習課題(2)「熱交換器」	フィンの伝熱，熱交換器序論を理解し説明できる。
		12週	・熱交換器 対数平均温度差による 計算方法 ・授業時間外の学習：演習課題(3)「対流伝熱」	熱交換器 対数平均温度差による計算方法を理解し説明できる。
		13週	・熱交換器 有効率・熱通過単位数による計算方法	熱交換器 有効率・熱通過単位数による計算方法を理解し説明できる。
		14週	・対流伝熱	対流伝熱を理解し説明できる。
		15週	・放射伝熱	放射伝熱を理解し説明できる。
		16週	・期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	応用設計工学
科目基礎情報						
科目番号	0016		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：真壁「新版 信頼性工学入門」（日本規格協会） 参考書：大村「信頼性工学のはなし」（日科技連）などが読みやすい。					
担当教員	小西 大二郎					
到達目標						
学習目的：機械要素をはじめ、機械設計の基礎となる考え方や方法を理解することで、様々なシステムに関する基本的なデザイン能力を習得する。						
到達目標						
1. 本科で学習した機械工学、電子制御工学の各科目を基礎として、機械システム設計の基本的考え方や手法を理解する。 2. 機械やシステムのデザインは世界中の生産活動に直結している。標準化の意義とISO、JIS規格などの重要性を理解する。 3. 実際の機械システムの設計には、如何に多くの角度から検討することが必要かを知り、具体的な課題をデザインする基本能力を身につける。 さらに、応用設計工学の講義を通じて種々の学問、技術の総合応用力を学ぶ。 ◎ 専門工学のさまざまな知識を融合して課題に取り組むことができ、知識の社会への影響を考慮できる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	信頼性評価手法を用いて、設計要件・問題点等の課題を明確にして、論理的に判断を下す事ができる。	信頼性工学を自分の専門分野に応用するための基礎知識および基礎理論が説明できる。	信頼性工学を自分の専門分野に応用するための基礎知識および基礎理論が概ね言える。	信頼性工学を自分の専門分野に応用するための基礎知識および基礎理論が言えない。		
評価項目2	機械システムについて、ISO、JIS規格を運用しながら信頼性・安全性に配慮した設計検討ができる。	システムを構成する部品の信頼度からシステムの信頼度を計算でき、信頼性・安全性に配慮した設計検討ができる。	システムを構成する部品の信頼度からシステムの信頼度を概ね計算できる。	システムを構成する部品の信頼度からシステムの信頼度を計算できない。		
評価項目3	機械の寿命という視点から限界モデル・耐久モデル、故障分布モデルが説明でき、微分・積分を使って分析できる。	信頼性の評価尺度が説明できる。	信頼性の評価尺度が概ね言える。	信頼性の評価尺度が言えない。		
評価項目4	設計対象となるものを、使用者や生産性、環境のことを配慮しながら設計するための基本的事項が説明できる。	信頼性工学の役割が説明できる。	信頼性工学の役割が概ね言える。	信頼性工学の役割が言えない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：設計と生産・管理 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「（2）材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門技術分野の知識を修得し，機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化、A-2：「材料と構造」、「運動と振動」、「エネルギーと流れ」、「情報と計測・制御」、「設計と生産・管理」、「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」であるが、グローバル・スタンダードの重要性についても学び、付随的に「B-1」にも関連する。 授業の概要：本科で学習した機械工学，電子制御工学の各科目を基礎として，現代社会で活躍している機械やシステムはどのようなプロセスを経て設計されているのかを学ぶ。信頼性設計の基本的な考え方について解説する。					
授業の進め方・方法	授業の方法：プロジェクトによる教示をまじえて授業を進め，理解を深めるためレポート・演習を課す。 成績評価方法：中間達成度試験，期末試験それぞれ1回行い，試験（70％），授業時間外の学習成果であるレポート，演習（30％）で評価し，これらの成績の平均を最終成績とする。試験では教科書・ノートの持ち込みを許可しない。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：本科目は，従来学習してきた機械要素設計法から機械をシステムとしてとらえた設計への展開を考える科目である。 基礎科目：機械工学，電子制御工学全般にわたる科目のほか機械設計法，簡単な数学・統計学の知識など 関連科目：エネルギーシステム工学（専1年），精密加工学（専1），流体力学（専2），材料強度学（専2），振動工学（専2），生産管理工学（専2） 受講上のアドバイス：機械工学と電子制御工学の基礎知識が前提となる。ものづくり，生産とは何か，をよく考えることが大切。 遅刻は25分までとし、これを越えるときは欠課と見なす。					
授業計画						
	週	授業内容			週ごとの到達目標	

後期	3rdQ	1週	●ガイダンス、設計と信頼性 1〔信頼性の役割と技術、品質マネジメントシステム〕 授業時間外の学習内容 〔項目〕（指示事項）：●製造物の責任と品質としての信頼性	「信頼性」という概念を認識し、「システム」に対して信頼性を考えることの意義が説明できる。信頼性問題の重要性を理解する。マーケティングの基本概念である「プロダクトアウト」・「マーケットイン」を説明できる。製品品質の保証という着目点から品質保証と信頼性の関係を理解できる。品質は品物の価値をあらわす「ものさし」であることが説明できる。
		2週	●設計と信頼性 2・信頼性概論〔信頼性工学、信頼性試験のデータ解析〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●同上、フィールドデータの整理（ヒストグラム）	信頼性工学の役割と信頼性の維持と向上を考えるために必要となる評価尺度が説明できる。故障発生にはパターンがあることを理解し、バスタブ曲線を説明できる。母集団と標本概念を理解する。信頼性データの取り扱いについて理解する。
		3週	●故障モデルと強度・寿命設計 1〔強度的機能とモデル〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●信頼性の対象としての故障、強度設計と信頼性の関係、確率変数と確率分布	基準の強さ、許容応力と安全率との関係、安全率の考え方と必要性を説明できる。確率変数と確率分布に関する基本的概念と諸性質を理解している。正規分布について、確率の計算ができる。
		4週	●故障モデルと強度・寿命設計 2〔金属疲労の進行過程〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●マイナー則、パリス則	材料の疲労特性について理解を深め、マイナー則（線形累積損傷則）やパリス則（き裂進展則）から構造物の疲労寿命を計算できる。セーフライフ設計（安全寿命設計）とフェールセーフ設計（損傷許容設計）の概念を理解する。
		5週	●信頼性の尺度〔確率密度関数、分布関数、信頼度関数、瞬間故障率関数〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●確率と信頼度・故障率の関係	修理系と非修理アイテムの違いを理解する。機械の寿命という視点から故障分布モデルが説明できる。技術的尺度としての信頼性特性値の定義と数学的表現を理解する。寿命分布と故障率の関係について理解する。
		6週	●故障分布モデル〔確率分布〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●離散型確率分布と連続型確率分布	確率分布モデルにおける二項分布・ポアソン分布・指数分布（母集団の確率分布）の意味を理解する。故障発生にはパターンがあることを理解し、バスタブ曲線を説明できる。機械の寿命という視点から故障分布モデルが説明できる。確率密度関数: f、累積分布関数:F、信頼度関数:R、瞬間故障率関数:λの4つの関数は一連のつながりをもっていることが説明できる。すなわち、関数の1つが既知なら、残りの3つの関数は求まることがわかる。
		7週	●信頼性試験 1〔信頼性試験のデータ解析〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●フィールドデータの整理（推定と検定）	信頼性試験と信頼性データの取り扱いについて理解する。システムの構成要素の情報が与えられた場合に、各信頼性評価尺度の計算ができる。故障するまでの時間または寿命のデータから信頼性特性値を推定したり、故障分布モデルから寿命現象を推測できる。推定の概念を理解し、点推定ができる。母平均の区間推定、検定ができる。
		8週	（中間達成度試験）	
	4thQ	9週	●中間達成度試験の返却と解説、信頼度の配分と予測〔システム信頼性モデル〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●システム信頼性モデル（並列と直列）、指数分布、寿命予測：●フィールドデータに対するワイブル・プロット	直列システム、並列（冗長）システムの信頼度が計算できる。システムを構成する部品の信頼度からシステムの信頼度を計算できる。
		10週	●ワイブル・プロット〔ワイブル分布〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●フィールドデータに対するワイブル・プロット	故障時間分布の形（故障分布モデル）から故障現象や寿命を推測できる。ワイブル確率紙解析ができる。
		11週	●信頼性試験 2〔故障物理、信頼性試験〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●加速試験、抜取検査	信頼性試験の重要性と信頼性試験法を理解する。温度加速による寿命予測のためのワイブル解析およびアレニウス・プロットの実施手順がわかる。
		12週	●安全性と信頼性設計〔アベイラビリティ、信頼性設計〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●エラーリカバリー、保全とアベイラビリティ、エルゴノミクス	修理システムとその信頼性の計算ができる。アベイラビリティの意味が説明でき、その値を算出できる。安全性は、製品に織り込まれている信頼性を維持し、その信頼性の効果を十分に発揮させるために欠かせないものであることが説明できる。設計対象となる製品を、使用者や環境のことを配慮しながら設計できる。
		13週	●機械安全と余裕設計〔安全率と故障確率〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：●ストレス・強度の分布モデルと強度設計	信頼性とのインターフェースである、安全性技術の概要を理解する。安全性に配慮した機械システムの設計ができる。
		14週	●信頼性解析手法〔故障解析〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）●リスクと故障解析	トラブルの未然防止手法としてFMEA、FTAの手法が使える。故障の予測と対処、リスク管理の手法が使える。現実問題を即物的に解決する信頼性評価手法を用いて、設計仕様・問題点等の課題を明確にして、論理的に判断を下す事ができる。
		15週	（期末試験）	
		16週	●期末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	精密加工学
科目基礎情報						
科目番号	0017		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：田口紘一、明石剛二「精密加工学（機械系教科書シリーズ 16）」（コロナ社）参考書：伊藤豊次「超精密加工のエッセンス」（日刊工業新聞社）は生産現場でのノウハウの視点から解説。日本機械学会編「生産加工の原理」（日刊工業新聞社）は生産加工全般を網羅的・原理的な視点から解説。					
担当教員	小西 大二郎					
到達目標						
学習目的：高精度加工のための工作機械・工具・加工プロセスやそれらの技術について考えることで、超精密加工に関する基礎知識を深化させる。						
到達目標 1. 超精密加工・微細加工の適用分野とその社会的意味合いを述べることができる。 2. 普通加工/超精密加工/微細加工の違いを理解して類別できる。 3. 切削/研削/研磨加工の特徴を転写性・分解能の視点から説明できる。 4. 機械材料の工作方法および工作機械の基礎的な事柄を理解できる。 5. 工作機械/工具/加工プロセスについての基礎知識を修得し、超精密加工の技術や課題について考察できる。 6. 工作機械の要素技術/工具・加工技術を理解し、高精度加工のための方策について考察できる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	精密加工，超精密加工の適用分野とその社会的意味合いを述べることができる。	精密加工，超精密加工の適用分野とその付加価値を説明できる。	精密加工，超精密加工の適用分野とその付加価値を概ね言える。	精密加工，超精密加工の適用分野を言えない。		
評価項目2	超精密加工の定義と加工についての知識を理解し，高精度加工のための指針を考察できる。	加工単位と工具の大きさの関係から普通加工/超精密加工/微細加工の違いを理解して類別できる。	加工単位と工具の大きさの関係から普通加工/超精密加工/微細加工の違いを概ね言える。	加工単位と工具の大きさの関係から普通加工/超精密加工/微細加工の違いを言えない。		
評価項目3	加工原理から切削/研削/研磨加工の特徴を理解し，超精密加工のための手法や課題を説明できる。	加工原理から切削/研削/研磨加工の特徴を説明できる。	加工原理から切削/研削/研磨加工の特徴を概ね言える。	加工原理から切削/研削/研磨加工の特徴を言えない。		
評価項目4	各種工作法を工作物の質量変化の視点から分類し，その特徴を説明できる。 工作機械が変位基準で設計されていることが説明できる。 工作機械・工具・工作物の関係を説明できる。	各種工作法を工作物の質量変化の視点から分類し，その特徴を説明できる。 工作機械が変位基準で設計されていることが説明できる。	各種工作法を工作物の質量変化の視点から分類し，その特徴を概ね言える。 工作機械が変位基準で設計されていることが概ね言える。	各種工作法を工作物の質量変化の視点から分類し，その特徴を言えない。 工作機械が変位基準で設計されていることが言えない。		
評価項目5	切削/研削/研磨加工の加工プロセスを理解し，超精密加工への適用例について説明でき，超精密加工技術の課題について考察できる。	切削/研削/研磨加工の加工プロセスを理解し，超精密加工への適用例について説明できる。	切削/研削/研磨加工の加工プロセスを理解し，超精密加工への適用例について概ね言える。	切削/研削/研磨加工の加工プロセスを理解していないし，超精密加工への適用例についても言えない。		
評価項目6	工作機械の要素設計技術や工具技術，除去加工の現象・モデルを説明でき，高精度加工のための方策について考察できる。	工作機械の要素設計技術や工具技術，除去加工の現象・モデルを説明できる。	工作機械の要素設計技術や工具技術，除去加工の現象・モデルを言える。	工作機械の要素設計技術や工具技術，除去加工の現象・モデルを言えない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：設計と生産・管理					
	必修・選択の別：選択					
	基礎となる学問分野：工学/機械工学/生産工学・加工学					
	専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「（2）材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門技術分野の知識を修得し，機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。					
授業の進め方・方法	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化、A-2：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」である。					
	授業の概要：現代の科学技術において精密・超精密加工技術は重要な役割を担っており，他の周辺技術とともに相補的に進化・発展している。本講義では，主に切削・砥粒加工を対象として，精密・超精密加工技術の特徴と機構を概観し，これらが先端技術などに果たす役割について学習する。また，機械加工以外の超微細加工技術についても概観する。					
	授業の方法：プロジェクターを中心に授業を進める。これまでに修得した機械加工や工作機械に関する知識を確認しながら授業を進める。また，理解を深めるため，授業進度を考えながら適当な時期に課題，演習を課す。					
成績評価方法：期末試験に加え中間達成度試験を行う。それぞれの試験の結果を同等に評価する（70％）。試験には，教科書の持込を許可する。授業時間外の学習成果である課題・演習（30％）。						

注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
	履修のアドバイス：これまで学習した機械加工や工作機械の知識を必要とする科目である。			
	基礎科目：機械設計法Ⅰ,Ⅱ（機械工学科3，4年），機械工作法Ⅱ（4），工作機械（5），計測工学（5），機械工作法（電子制御工学科2年），設計工学（5），計測工学（5）など			
	関連科目：機械・制御システム特別実験（専1年），応用設計工学（専1）			
受講上のアドバイス：本科で学習した知識を基に，加工精度高精度化のための工作機械の要素技術，工具技術，加工技術，制御・計測技術についての知識を総合的に考えること。 遅刻は25分までとし,これを越えるときは欠席と見なす。				
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	・ガイダンス，超精密加工法が適用される製品 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：	超精密加工・微細加工の適用分野とその社会的意味合いを述べることができる。
		2週	・超精密加工の背景1〔超精密加工とは〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・機能 ・加工精度の視点からみた工作機械の技術動向	機械材料の工作方法および工作機械の基礎的な事柄を理解できる。
		3週	・超精密加工の背景2〔超精密加工法の種類〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・加工の転写性と分解能の視点からみた超精密加工の技術	各種工作法を、工作物の質量変化の視点から眺め、分類し、その特徴を説明できる。 切削/研削/研磨加工の特徴を転写性・分解能の視点から説明できる。 普通加工/超精密加工/微細加工の違いを理解して類別できる。
		4週	・超精密加工の背景3〔超高精度加工システムの基本技術〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・再現性と超精密加工機の基本技術	工作機械の要素技術/工具・加工技術を理解し、高精度加工のための方策について考察できる。
		5週	・超精密切削加工機1〔工作機械の構造と構成要素の役割，構造要素〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・工作機械の基本構成要素と形状創成運動，・構造用材料の機械的性質と剛性の関係	工作機械本体の構造を説明できる。 高精度加工を実現するために必要な諸原理や考え方を説明できる。 工作機械の要素技術/工具・加工技術を理解し、高精度加工のための方策について考察できる。
		6週	・超精密切削加工機2〔工作機械の構成要素と工夫－主軸〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・主軸の剛性（軸受構造）と回転精度,案内の剛性と運動精度，高速化	工作機械の構造や主軸の駆動方式を説明できる。 高精度加工を実現するために必要な諸原理や考え方を説明できる。 工作機械の要素技術/工具・加工技術を理解し、高精度加工のための方策について考察できる。 平面軸受とジャーナル軸受の流体潤滑の原理が説明できる。 静圧軸受と動圧軸受の相違および静圧軸受の原理が説明できる。
		7週	・超精密切削加工機3〔工作機械の構成要素と工夫－直線運動機構〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・直線運動機構の剛性と運動精度・高速化	工作機械の構造や案内の駆動方式を説明できる。 高精度加工を実現するために必要な諸原理や考え方を説明できる。 工作機械の要素技術/工具・加工技術を理解し、高精度加工のための方策について考察できる。
		8週	（中間達成度試験）	
	2ndQ	9週	・中間試験の返却と解答，超精密切削加工用の工具〔超精密切削工具と保持具〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・切削工具に求められる事項	工作機械の要素技術/工具・加工技術を理解し、高精度加工のための方策について考察できる。 工作機械/工具/加工プロセスについての基礎知識を修得し、超精密加工の技術や課題について考察できる。 刃物の持つべき性質、切削工具材料の条件と種類を説明できる。 切削工具の刃部の摩耗によって生じる現象および工具寿命を説明できる。
		10週	・金属の切削機構1〔切削モデルと切りくず〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・切削加工の現象	切削のしくみと切りくずの形態、切削による熱の発生、構成刃先を説明できる。 除去加工の現象を理解した上で、そのモデルが説明できる。
		11週	・金属の切削機構2〔切削抵抗と単一せん断面モデル加工〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・切削抵抗と単一せん断面モデル	工作機械/工具/加工プロセスについての基礎知識を修得し、超精密加工の技術や課題について考察できる。 切削のしくみと切りくずの形態、切削による熱の発生、構成刃先を説明できる。 除去加工の現象論を理解した上で、そのモデルが説明できる。
		12週	・金属の切削機構3〔仕上げ面の粗さ，切削加工で高仕上げ面粗さを得る方法と超精密切削機構〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・切削条件・工具条件と表面粗さの関係	切削加工の高精度化技術とその社会的意味合いを述べることができる。 加工精度、生産性を上げるための切削工具の工夫を説明できる。
		13週	・超精密研削加工〔超精密研削法〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・砥粒による加工の特徴と高精度化	砥石車の3要素・5因子について説明でき、これらと研削性能の関係から砥石車選定の仕方を説明できる。 研削加工と研磨加工の類似点、相違点を説明できる。 砥粒加工を固定砥粒工具と遊離砥粒工具を用いる加工に分類できる。 どのように研削が行われるのか加工のしくみや特徴について説明できる。 研削加工の高精度化技術とその社会的意味合いを述べることができる。

		14週	・超精密研磨加工〔従来からの研磨法と超精密研磨法〕 授業時間外の学習内容〔項目〕（指示事項）：・固定・遊離砥粒による加工の特徴，・完全表面創成の加工メカニズム	研磨加工を砥粒の固定の仕方で分類できる。 研磨加工の高精度化技術とその社会的意味合いを述べる ことができる。
		15週	（期末試験）	
		16週	・期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	制御機器特論
科目基礎情報						
科目番号	0018		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	井上 浩行					
到達目標						
学習目的：工場の自動化を念頭において，空気圧アクチュエータ，三相誘導電動機，直流サーボモータ，PLCとマイコンについて，その特徴および制御方法を理解すること。						
到達目標						
1. 空気圧シリンダのための空気圧回路およびそのシーケンス制御						
2. 三相誘導電動機のシーケンス制御						
3. 直流サーボモータのフィードバック制御						
4. PLCによるシーケンス制御						
5. マイクロコンピュータの機能と構成に関する基礎的事項						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	空気圧回路の機器構成とシーケンス図を自ら描画できる。	空気圧回路およびシーケンス図を理解している。	空気圧アクチュエータの動作を説明できる。	左記に達していない。		
評価項目2	三相誘導電動機のシーケンス制御回路およびシーケンス図を自ら描画できる。	三相誘導電動機のシーケンス制御回路およびシーケンス図を理解している。	シーケンス図を理解している。	左記に達していない。		
評価項目3	直流サーボモータの数式モデルを導出できる。	直流サーボモータの基本特性（トルク特性、回転数特性など）を説明できる。	シーケンス図を理解している。	左記に達していない。		
評価項目4	簡単な実システムに対して，PLCの結線図とラダー図を描くことができる。	PLCの結線図およびラダー図を理解している。	ラダー図を理解している。	左記に達していない。		
評価項目5	マイコンが産業技術に与えた影響を説明できる。	マイコンの機能と構成を説明できる。	マイコンの機能を説明できる。	左記に達していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：情報と計測・制御 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学/機械工学/機械力学・制御 学科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し，機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A-2：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」である。 授業の概要：製造工場のFA(Factory Automation)やFMS(Flexible Manufacturing System)は，高品位・高効率な生産において不可欠な技術となっている。このような工場の自動化を念頭において，これを実現するための制御機器について学ぶ。					
授業の進め方・方法	授業の方法：本講義では，まず空気圧制御技術について学習する。基本的な空気圧シリンダのシーケンス制御について実例をまじえて講義する。また，後半では三相誘導電動機，直流サーボモータ，PLC，マイコンについても学習する。講義では，できるだけ実際の制御機器を実物やカタログ等で示し理解を深める。 成績評価方法：期末試験の結果（70%），および授業時間外の学習成果（課題レポート）（30%）を総合して評価する。試験の持込可能物品はその都度指示する。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：授業ではプリントを配布し，板書やPPT等で補足する。また，実際の機器やカタログ等を示すので出来るだけ欠席しないようにすること。 基礎科目：制御工学Ⅰ・Ⅱ（機械4・5年，電制4・5），メカトロニクス（機械5，電制5），計測工学（機械5），センサ工学（電制5）など 受講上のアドバイス：遅刻については，授業開始後15分以上経過した時点で再度出席確認し，その時に不在であればその日の授業時間全部を欠課扱いとする。 制御機器は実際に使ってみることで理解が深まる。特別研究での実験装置の製作，あるいは趣味のものの作りなどでは制御機器を使う場合が多いので，このような作業を通してできるだけ実際の機器に触れる機会をもつことを勧める。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			

		2週	自動化のための空気圧技術	空気圧回路, 空気圧機器
		3週	自動化のための空気圧技術	エアーシリンダ, 方向切換弁, スピードコントローラ
		4週	自動化のための空気圧技術	シーケンス制御, 制御機器
		5週	自動化のための空気圧技術	ロータリーアクチュエータ, 駆動回路
		6週	自動化のための空気圧技術	エアーシリンダ, 駆動回路
		7週	交流と三相誘導電動機	交流, 電力送電系統, 受変電設備
		8週	交流と三相誘導電動機	三相誘導電動機
	2ndQ	9週	直流サーボモータ, ステッピングモータ	直流サーボモータ, ステッピングモータ
		10週	センサ, デジタル I C	静電容量形近接センサ, 光電センサ
		11週	センサ, デジタル I C	スイッチ, リレー
		12週	オペアンプ	オペアンプ
		13週	制御用マイコン	PLC, ラダー図
		14週	制御用マイコン	Arduino, Raspberry Pi
		15週	(前期末試験)	
		16週	前期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	課題	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		0	0	0	
専門的能力		70	30	100	
分野横断的能力		0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	技術英語講読
科目基礎情報						
科目番号	0019		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：適宜プリントを配布する					
担当教員	山口 大造					
到達目標						
学習目的：英文で記載された論文の内容を理解して仕事に活用したり，これを要約して分かりやすく伝えるための素養を育成する。						
到達目標						
1．適切な英文論文を検索でき，その内容について理解できる。						
2．英文技術論文の内容について英語でスライドを作成することができ，日本語で紹介プレゼンテーションができる。						
3．英語による質問を理解して日本語による応答ができる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	適切な英文論文を検索でき，その内容について理解でき，自身の活動に反映させる計画が立てられる。	適切な英文論文を検索でき，その内容について理解できる。	適切な英文論文を検索できる。	左記に達していない。		
評価項目2	英文論文の内容について英語でスライドを作成することができ，英語（日本語でも可）で紹介プレゼンテーションができる。	英文論文の内容について英語でスライドを作成することができ，日本語で紹介プレゼンテーションができる。	英文論文の内容について英語で発表スライドを作成することができる。	左記に達していない。		
評価項目3	英語により，自身の研究内容についてプレゼンテーションでき，英語（日本語でも可）により質疑応答ができる。	英語により，自身の研究内容についてプレゼンテーションでる。	英語により，自身の研究内容について発表スライドを作成することができる。	左記に達していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：機械とシステム 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学／機械工学 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「（6）校外実習，先端技術特別講義や学協会への参加を通じて，地域社会との連携を図るとともに，地球的視点からものを見ることの大切さを理解する」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（F）コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力の育成，F－2：発表や討論をとおして，相手の考えや知識の相互理解ができること」である。付随的には「A－2」にも関与する。 授業の概要：英文で記載された論文を中心に論文の講読と文献紹介を行う。専門知識を確認しながら読解力の育成を図るとともに，英文論文の内容をまとめて発表する文献紹介を通してプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成を図る。					
授業の進め方・方法	授業の方法：英文論文に関するリテラシーおよび英語によるプレゼンに関する教育を実施した後，パワーポイントや各種のメディア，板書など中心にした発表方法で学生が選定した英文論文概要のプレゼンを実施する形で授業を進める。また，教員が選定した課題レポート（①～③）を実施する。教員および学生間の議論（プレゼンテーション含む）に多くの時間を割り当てながら授業を進める。専門基礎知識の確認を併せて実施し，質疑応答を通して内容の理解を深める。4週以降：次週発表予定の学生は，選定した論文を公表し，他の学生は，次週の質問を英語にて準備する（レポートとして提出）。論文概要の発表の前に自身の研究について，英語で発表する（発表時間3分程度）。 成績評価方法：プレゼンテーション（発表内容20％，スライド内容20％，ディスカッションへの取組姿勢20％）60％，レポート内容30％，小テスト（筆記試験）10％として総合的に評価する。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする」科目である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。概要発表を必ず行うことを準認定要件とする。 履修のアドバイス：専門分野の基礎知識が前提となる。必ず予習をし，毎日英語に触れる機会を持つように心掛けること。 基礎科目：英語，機械工学・電子制御工学に関する専門基礎知識。 関連科目：実践英語Ⅰ（専1年），実践英語Ⅱ（専2）。 受講上のアドバイス：エンジニアに英語は必須である。授業には，各自で自発的，積極的に取り組むとともに，英語に触れる機会を多く持つように心掛けること。15分を越える遅刻は，欠課とみなす。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス，研究活動について（授業時間外の学習：課題（1）研究不正について①）	研究不正について		
		2週	研究活動と論文（授業時間外の学習：課題（2）研究室について②）	研究室について		
		3週	学術文献に関するリテラシー教育（授業時間外の学習：課題（3）投稿規程について，概要発表論文の決定③）	投稿規程について		

		4週	英語によるプレゼン技術（授業時間外の学習：課題（4）自分の研究について（英文）、英文質問準備（1））	自分の研究についての英語プレゼン，選定論文の理解（1）
		5週	英文論文の 概要発表（1）（授業時間外の学習：課題（5）英文質問準備（2））	選定論文の理解（1）
		6週	英文論文の 概要発表（2）（授業時間外の学習：課題（6）英文質問準備（3））	選定論文の理解（2）
		7週	英文論文の 概要発表（3）（授業時間外の学習：課題（7）英文質問準備（4））	選定論文の理解（3）
		8週	英文論文の 概要発表（4）（授業時間外の学習：課題（8）英文質問準備（5））	選定論文の理解（4）
	2ndQ	9週	英文論文の 概要発表（5）（授業時間外の学習：課題（9）英文質問準備（6））	選定論文の理解（5）
		10週	英文論文の 概要発表（6）（授業時間外の学習：課題（10）英文質問準備（7））	選定論文の理解（6）
		11週	英文論文の 概要発表（7）（授業時間外の学習：課題（11）英文質問準備（8））	選定論文の理解（7）
		12週	英文論文の 概要発表（8）（授業時間外の学習：課題（12）英文質問準備（9））	選定論文の理解（8）
		13週	英文論文の 概要発表（9）（授業時間外の学習：課題（13）英文質問準備（10））	選定論文の理解（9）
		14週	英文論文の 概要発表（10）（授業時間外の学習：これまでの質問のまとめ）	選定論文の理解（10）
		15週	（前期期末試験）	
		16週	総括	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	20	20	20	0	30	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	20	0	30	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	工学総論I	
科目基礎情報							
科目番号	0020			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	教科書：平成30年度は開講しないので記載しない。						
担当教員	小西 大二郎						
到達目標							
学習目的：(1)他の教育機関からの入学者がJABEE対応の技術教育プログラム履修を希望する際、入学以前の修得単位のうち、本校の科目として認定できない単位を補う。 (2)主に他の教育機関から入学前の専門と異なる専攻に入学した場合、専門知識と能力を補い専攻科での学習を効果的に進める。							
到達目標 1. 専攻科に関する基礎知識と能力の深化を図る。 2. 得られた知識等を専攻での学習と研究に活用できる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解すると共に、工学に関するスキルを課題・問題に適用し解決できる。		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解すると共に、工学に関するスキルを課題・問題に適用できる。		専攻する特定の学問分野における基本的な知識や工学に関するスキルを課題・問題に適用できる。		専攻する特定の学問分野における基本的な知識や工学に関するスキルを課題・問題に適用できない。
評価項目2	これまでに学んできた専門工学のさまざまな知識を融合して課題・問題に取り組むことができ、知識の社会への影響を考察できる。		これまでに学んできた専門科目の知識を統合・発展させ、課題・問題に応用することができる。		これまでに学んできた専門科目の知識を課題・問題に応用することができる。		これまでに学んできた専門科目の知識を課題・問題に応用することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：自然科学系共通・基礎 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学/電気電子工学/電子デバイス・電子機器 専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(1)数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化，A-2:「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「A-1」にも関与する。 授業の概要：他の教育機関からの専攻科入学者に対して，以下の目的のために設けられた科目である。本科目は専攻科修了のための単位とならない。 (1)他の教育機関からの入学者がJABEE対応の技術教育プログラム履修者となるために，入学以前の全ての修得単位について本校本科の科目と内容の同等性を審査する。この際，本校の科目として認定できない単位を本科目に対応させる。 (2)主に他の教育機関から入学前の専門と異なる専攻に入学した場合，専門知識と能力を補い専攻科での学習を効果的に進めるための科目とする。授業内容は入学以前の学科・履修科目等を考慮して決める。						
授業の進め方・方法	授業の方法：出身教育機関や過去の学習内容に従って学習内容を決定する。マンツーマンの授業となるので，学生の基礎学力と理解度を確認しながら進める。理解が深まるように問題演習やレポートを課して，総合的な力を身に付ける。 成績評価方法：平成30年度は開講しないので記載しない。						
注意点	履修上の注意：他の教育機関からの専攻科入学者で，授業の概要に記した分類(1)(2)に該当するものは必ず履修すること。本科目は専攻科修了のための単位とならない。また，本科目は「45単位時間の学習で1単位とする」科目である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。 履修のアドバイス：学習意欲が重要である。積極的に取り組む姿勢が必要である。 基礎科目：物理(力学)，数学(微積分，三角関数など)，など 関連科目特別実験（専1年）など 受講上のアドバイス：学習意欲が重要である。授業時間外での学習（予習，復習，課題など）を十分に行い，理解できない点は積極的に質問するよう心掛けること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	平成30年度は開講しないので記載しない。				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	工学総論II	
科目基礎情報							
科目番号	0021		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材	教科書：平成30年度は開講しないので記載しない。						
担当教員	小西 大二郎						
到達目標							
学習目的：(1)他の教育機関からの入学者がJABEE対応の技術教育プログラム履修を希望する際、入学以前の修得単位のうち、本校の科目として認定できない単位を補う。 (2)主に他の教育機関から入学前の専門と異なる専攻に入学した場合、専門知識と能力を補い専攻科での学習を効果的に進める。							
到達目標 1. 専攻科に関する基礎知識と能力の深化を図る。 2. 得られた知識等を専攻での学習と研究に活用できる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解すると共に、工学に関するスキルを課題・問題に適用し解決できる。		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解すると共に、工学に関するスキルを課題・問題に適用できる。		専攻する特定の学問分野における基本的な知識や工学に関するスキルを課題・問題に適用できる。		専攻する特定の学問分野における基本的な知識や工学に関するスキルを課題・問題に適用できない。
評価項目2	これまでに学んできた専門工学のさまざまな知識を融合して課題・問題に取り組むことができ、知識の社会への影響を考察できる。		これまでに学んできた専門科目の知識を統合・発展させ、課題・問題に应用することができる。		これまでに学んできた専門科目の知識を課題・問題に应用することができる。		これまでに学んできた専門科目の知識を課題・問題に应用することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：自然科学系共通・基礎 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学/電気電子工学/電子デバイス・電子機器 専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(1)数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め、機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化，A-2：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「A-1」にも関与する。 授業の概要：他の教育機関からの専攻科入学者に対して，以下の目的のために設けられた科目である。本科目は専攻科修了のための単位とならない。 (1)他の教育機関からの入学者がJABEE対応の技術教育プログラム履修者となるために，入学以前の全ての修得単位について本校本科の科目と内容の同等性を審査する。この際，本校の科目として認定できない単位を本科目に対応させる。 (2)主に他の教育機関から入学前の専門と異なる専攻に入学した場合，専門知識と能力を補い専攻科での学習を効果的に進めるための科目とする。授業内容は入学以前の学科・履修科目等を考慮して決める。						
授業の進め方・方法	授業の方法：出身教育機関や過去の学習内容に従って学習内容を決定する。マンツーマンの授業となるので，学生の基礎学力と理解度を確認しながら進める。理解が深まるように問題演習やレポートを課して，総合的な力を身に付ける。 成績評価方法：平成30年度は開講しないので記載しない。						
注意点	履修上の注意：他の教育機関からの専攻科入学者で，授業の概要に記した分類(1)(2)に該当するものは必ず履修すること。本科目は専攻科修了のための単位とならない。また，本科目は「4 5単位時間の学習で1単位とする」科目である。1単位あたり授業時間として1 5単位時間開講するが，これ以外に3 0単位時間の学習が必修となる。 履修のアドバイス：学習意欲が重要である。積極的に取り組む姿勢が必要である。 基礎科目：物理(力学)，数学(微積分，三角関数など)，など 関連科目特別実験（専1年）など 受講上のアドバイス：学習意欲が重要である。授業時間外での学習（予習，復習，課題など）を十分に行い，理解できない点は積極的に質問するよう心掛けること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	平成30年度は開講しないので記載しない。				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					

後期		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	実践英語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0022		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書:「TOEICテストリスニングをひとつひとつわかりやすく」(学研) 参考書:辞書(電子辞書可)						
担当教員	山口 裕美						
到達目標							
[学習目的] 研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。 [到達目標] 1.本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。 2.英語によるプレゼンテーション能力を身につける。 3.自分の到達度を測る手段としてTOEICを利用し、履修後にスコアを上げることができる。 ◎技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。		身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。		身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。		身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につけていない。
評価項目2	英語によるプレゼンテーション能力を十分に身につける。		英語によるプレゼンテーション能力をおおむね身につける。		英語によるプレゼンテーション能力を最低限は身につける。		英語によるプレゼンテーション能力を身につけられない。
評価項目3	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができる。		TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をとおおむね解くことができる。		TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をいくらか解くことができる。		TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別・学習の分野: 一般・外国語 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 英語・英米文学・言語学・音声学 専攻科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(6) 校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。 授業の概要: プレゼンで頻用される表現やテクニックを学習しながら、英語での発表ができるようにする。TOEICテストの準備も行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法: 授業での表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に、TOEICのテキストを用いて、リスニングを中心に、TOEIC受験に向けた対策も進めていく。 成績評価方法: 課題20%, 小テスト35%, 発表25%, 相互評価20%, 以上の合計により評価する。定期試験をおこなわない。						
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段としてTOEICが広く認められている現状を踏まえ、TOEICを積極的に受験する姿勢を持って欲しい。 基礎科目: 英語Ⅳ(4年)、選択英語Ⅰ(4)、英語Ⅴ(5)、選択英語Ⅱ(5) 関連科目: 技術英語講読(専1)、実践英語Ⅱ(専2) 受講上のアドバイス: 授業前に必ず、予習をしてくること。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2回の遅刻で1単位時間の欠課とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス, TOEICの説明			授業概要を理解する。	
		2週	TOEICリスニング練習・アニメ『プラネテス』視聴 ①・プレゼンテーションテーマ設定			プレゼンテーションのテーマを決める。	
		3週	TOEICリスニング練習・アニメ『プラネテス』視聴 ②・プレゼンテーション資料収集			プレゼンテーションの資料収集ができる。	
		4週	TOEICリスニング練習・アニメ『プラネテス』視聴 ③・プレゼンテーション資料収集			プレゼンテーションの資料収集ができる。	
		5週	TOEICリスニング練習・アニメ『プラネテス』視聴 ④・プレゼンテーション練習(日本語版)			プレゼンテーションを日本語で構成できる。	
		6週	TOEICリスニング練習・アニメ『プラネテス』視聴 ⑤・プレゼンテーション練習(日本語版)			プレゼンテーションを日本語で発表できる。	
		7週	TOEICリスニング練習・アニメ『プラネテス』視聴 ⑥・プレゼンテーション練習(日本語版)			プレゼンテーションを日本語で発表できる。	
		8週	小テスト①			授業内容の復習ができる。	
	2ndQ	9週	TOEICリスニング練習・プレゼンテーション作成(英語版)			プレゼンテーションを英語で構成できる。	

	10週	TOEICリスニング練習・プレゼンテーション作成（英語版）	プレゼンテーションを英語で構成できる。
	11週	TOEICリスニング練習・プレゼンテーション発表（英語版）①	プレゼンテーションを日本語で発表できる。
	12週	TOEICリスニング練習・プレゼンテーション発表（英語版）②	プレゼンテーションを日本語で発表できる。
	13週	TOEICリスニング練習・プレゼンテーション発表（英語版）③	プレゼンテーションを日本語で発表できる。
	14週	小テスト②	授業内容の復習ができる。
	15週	（期末試験）	（期末試験）
	16週	授業のまとめ	授業の総括ができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	25	20	0	20	35	100
基礎的能力	0	25	20	0	20	35	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	社会科学概論
科目基礎情報						
科目番号	0023		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	佐野直子『社会言語学のまなざし』三元社。また、各自の選択テーマによって、購入すべき文献を指示することがある。					
担当教員	角谷 英則					
到達目標						
学習目的：専門とは異なる分野における思考方法をまなぶことによって、人間性涵養の背景となるような教養を身につけることを学習目的とする。 到達目標：社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	十分に授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	10回をこえて欠席すること		
評価項目2	指示に十分に従ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示にある程度従ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示に最低限従ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示に従ったレポートを提出しない／または口頭報告をおこなわないこと		
評価項目3	なし	なし	なし	なし		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：一般 人文・社会 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：史学・ジェンダー学・社会学・言語学・障害学 学科学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(4)特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球的視野に立った人間性の育成」「B-2:地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」である。 授業の概要：この科目は、近代以降に生み出された社会科学の古典やよく知られた諸学説に関する基本的な知識を参照・学習しながら、現代社会の具体的な諸問題について考えることによって、社会科学的なものの見方、思考方法を身につけることを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業の方法：毎週の当番報告者を中心として講義をおこないながら、受講者の意見を求め、そこからさらに議論を発展させていく方法で進める。 成績評価方法：提出課題（100%）もしくは口頭報告（100%）。十分な参加が評価対象となる必要条件である。課題は課題提示の翌週の提出することとし、授業時間外の学習評価はその内容によってなされる。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：この科目の受講者には、履修のために相当の学習意欲・知的好奇心・積極性が要求される。また、講義中の積極的な発言が歓迎される。遅刻（授業開始におくれること、）に対するペナルティはもうけないが、受講者の自律性につよく期待する。 基礎科目：世界史（1年）、政治経済（2）、日本史（3）、「人間と文化」（4）、「人間と社会」（5） 関連科目：なし 受講上のアドバイス：この科目の受講者には、履修のために相当の学習意欲・知的好奇心・積極性が要求される。また、講義中の積極的な発言が歓迎される。遅刻（授業開始におくれること、）に対するペナルティはもうけないが、受講者の自律性につよく期待する。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、導入「社会科学」とはなにか。			
		2週	社会科学的な思考について	以下、毎週、レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。		
		3週	演習			
		4週	演習			
		5週	演習			
		6週	演習			
		7週	演習			
		8週	演習			
	4thQ	9週	演習			

		10週	演習	
		11週	演習	
		12週	演習	
		13週	演習	
		14週	演習	
		15週	後期末試験	
		16週	演習	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	現代哲学
科目基礎情報						
科目番号	0024		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：川原栄峰「哲学入門以前」（南窓社） 参考書：特になし					
担当教員	稲田 知己					
到達目標						
学習目的：この授業は、生命倫理をはじめとした現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって、技術者として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。						
到達目標						
1 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。						
2 現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。						
◎ 3 人間性、教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。						
◎ 印がついているものは、分野横断的能力の到達目標です。						
ルーブリック						
	優		良	可	不可	
評価項目1	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その詳細を発展的に説明できる。		現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目2	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、詳細かつ発展的に説明できる。		現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目3	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ発展的に表現することができる。		公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ基本的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的に表現することができる。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：人文・社会 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：哲学／倫理学 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学習・教育目標「(5)工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに、広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（G）技術者倫理の理解，G－1：倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め、技術者として社会に対する責任を自覚し、説明できること」である。 授業の概要：現代の工学技術者・工学研究者にとって倫理教育は不可欠の教養となっている。今年度の「現代哲学」では、哲学・倫理学の根本問題を取り上げることによって、科学技術文明について考察を深めたい。					
授業の進め方・方法	授業の方法：前期開講。簡便な哲学の教科書を使用するが、受講生自身と議論することによって授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。 成績評価方法： 1回のレポート（50％）。授業中の発表あるいは授業内容を確認する報告書（50％）。再試験は実施しない。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：レポートが必ず課されるので、平素から新聞等を読む習慣をつけて、自分なりの問題関心をもつこと。 基礎科目：倫理（全系1年）、工業倫理学（全系5） 関連科目：工学倫理（専1年） 受講上のアドバイス：平常点・出席点は成績評価で考慮しないが、必ず授業時間数の2／3は出席すること。遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を1欠課とするという措置はとらない。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	● ガイダンス		すべての講義で到達目標1と2に関係する。到達目標3は報告書とレポートで扱う。	
		2週	● 教科書第1章「自由」		以下同じ。	
		3週	● 同上			
		4週	● 教科書第2章「歴史」			
		5週	● 同上			
		6週	● 教科書第3章「個と普遍」			
		7週	● 教科書第4章「科学の勃興			

	4thQ	8週	• 教科書第5章「客観性」	
		9週	• 同上	
		10週	• 教科書第6章「弁証法」	
		11週	・教科書第7章「実存」	
		12週	• 同上	
		13週	• 教科書第8章「ニヒリズム」	
		14週	• 同上	
		15週	• 報告書／レポート作成の指示	
		16週	成績評価の解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	数理工学	
科目基礎情報							
科目番号	0025		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：大田春外著　はじめよう位相空間（日本評論社），参考書：大田春外著　解いてみよう位相空間（日本評論社）						
担当教員	横谷 正明						
到達目標							
学習目的：トポロジーとその考え方を学ぶ。							
到達目標： 1．工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識，計算技術および応用能力を習得する。 2．ユークリッド幾何学とトポロジーについて理解する。 3．ユークリッド空間とその図形について理解する。 4．図形の変形と写像について理解する。							
ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目1	工学の基本的問題を解決するために必要な数学の応用能力を習得している。	工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識を熟知し，計算技術を習得している。	工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識を習得している。	工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識，計算技術の習得が不十分である。			
評価項目2	等長変換と合同変換の関係について理解している。	トポロジーの考え方を理解している。	ユークリッド幾何学と相似幾何学について理解している。	ユークリッド幾何学やトポロジーについて理解が不足している。			
評価項目3	図形の工作・グラフ・自己相似な図形について理解している。	トポロジーの観点から図形概念を理解している。	距離とユークリッド空間について理解している。	ユークリッド空間や図形概念について理解が不足している。			
評価項目4	図形の点列やその収束について理解している。	写像の性質について理解している。	図形の変形が写像で表されることについて理解している。	図形の変形や点列の理解が不足している。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門　学習の分野：自然科学系共通・基礎 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：数物系科学／数学／数学一般 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「（１）数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（Ａ）技術に関する基礎知識の深化，Ａ－１：工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」である。 授業の概要：工学において発生する問題を解決するひとつの手段として，現象の本質をとらえ，わかるところから切り崩していくことが考えられる。そんなとき役立つものの見方，方法を学ぶことが本講義の意義である。トポロジーは，図形を連続的に変形しても不変に保たれる性質を調べる学問であるが，このことを通じて不変性，すなわち本質をとらえるものの見方を学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心にして授業を進めていくが，同時に演習時間を出来るだけ多く設け，講義内容をより深く理解し，更に自力で問題を解く力が身につくように配慮する。 成績評価方法：定期試験（７０％）とレポート（３０％）で評価する。成績等によっては，再試験を行う(レポート課題を課す)こともある。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。１単位あたり授業時間として１５単位時間開講するが，これ以外に３０単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：予習，復習を必ず行い，また自力で演習問題を解くことによって講義内容をより深く理解していくことが大切である。 基礎科目：基礎数学Ⅰ（１年），基礎数学Ⅱ（１），微分積分Ⅰ（２），微分積分Ⅱ（３），基礎線形代数（２）　関連科目：各専門学科の科目 受講上のアドバイス：講義内容をよく理解し，自分で問題を解くことが重要である。自力で解法を見出すことを大切にしたい。遅刻の回数が多い場合は，警告を行った後，欠席扱いとすることもある。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ		ガイダンス，ユークリッド幾何学				
		1週	授業時間外の学習内容：レポート課題（１）「ユークリッド幾何学とトポロジー」				
		2週	相似幾何学 授業時間外の学習内容：レポート課題（１）「ユークリッド幾何学とトポロジー」				
		3週	トポロジー 授業時間外の学習内容：レポート課題（１）「ユークリッド幾何学とトポロジー」				

		4週	等長変換と合同変換 授業時間外の学習内容：レポート課題（１）「ユークリッド幾何学とトポロジー」	
		5週	演習（ユークリッド幾何学とトポロジー） 授業時間外の学習内容：レポート課題（１）「ユークリッド幾何学とトポロジー」	
		6週	距離とユークリッド空間 授業時間外の学習内容：レポート課題（２）「ユークリッド空間とその図形」	
		7週	図形 授業時間外の学習内容：レポート課題（２）「ユークリッド空間とその図形」	
		8週	図形の工作・グラフ・自己相似な図形 授業時間外の学習内容：レポート課題（２）「ユークリッド空間とその図形」	
	2ndQ	9週	集合と論理 授業時間外の学習内容：レポート課題（２）「ユークリッド空間とその図形」	
		10週	演習（ユークリッド空間とその図形） 授業時間外の学習内容：レポート課題（２）「ユークリッド空間とその図形」	
		11週	図形の変形 授業時間外の学習内容：レポート課題（３）「図形の変形と写像」	
		12週	写像 授業時間外の学習内容：レポート課題（３）「図形の変形と写像」	
		13週	数列と図形の点列 授業時間外の学習内容：レポート課題（３）「図形の変形と写像」	
		14週	演習（図形の変形と写像） 授業時間外の学習内容：レポート課題（３）「図形の変形と写像」	
		15週	（前期末試験）	
		16週	後期末試験の答案の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	科学探究
科目基礎情報						
科目番号	0026		科目区分		専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2	
開設期	後期		週時間数		2	
教科書/教材	教科書：適宜プリント等を配布する で使える 機能性材料パーフェクトガイド（講談社） 他				参考書：教科書：これ	
担当教員	山口 大造					
到達目標						
学習目的：工学分野を専攻した学生を対象に、異分野である理学分野に関する知識を広げる。主に、様々な分野（機械・エレクトロニクス・エネルギー・環境・生体・医療・スポーツなど）において用いられている各種材料の開発段階において用いられる汎用機器の簡単な原理および工学との関連性に主眼を置き、具体例から学習する。その過程において、工学と科学の関係性について学習することにより、幅広い視野を有するエンジニアとなることを目指す。						
						到達目標
1. 理学分野で用いられる汎用分析機器の利用目的と簡易な原理を説明できる。 2. 工学と理学の関係性について説明できる。						
ルーブリック						
	優		良		可	不可
評価項目1	理学分野で用いられる汎用分析機器の利用目的と簡易な原理を説明できる。		理学分野で用いられる汎用分析機器の利用目的を説明できる。		理学分野で用いられる汎用分析機器の名前をあげられる。	左記に達していない。
評価項目2	工学と理学の関係性について説明できる。		工学分野の専門性と理学分野の専門性の違いについて説明できる。		工学分野の専門性と他分野の専門性の違いについて説明できる。	左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：自然科学系基礎・共通 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学 / 材料工学 / 構造・機能材料 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「（1）数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A-1：工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」である。 授業の概要：主に，様々な分野（機械・エレクトロニクス・エネルギー・環境・生体・医療・スポーツなど）において用いられている各種材料の開発段階において用いられる汎用機器の簡単な原理および工学との関連性に主眼を置き，具体例から学習する。その過程において，工学と科学の関係性について学習することにより，幅広い視野を有するエンジニアとなることを目指す。					
授業の進め方・方法	授業の方法：主に板書・スライドによる講義を実施する。重要なキーワードについて理解を深化させるために課題を課す。 成績評価方法：レポート課題（60％），授業への取組姿勢（40％）で評価する。レポート課題の内容について厳密に評価する。参考文献として，論文を引用すること。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：数式を用いることは少ないが，化学反応や有機化学などの化学的知識を必要とすることが多いので，化学をよく学習しておくことが望ましい。 基礎科目：化学Ⅰ（2年），化学Ⅱ（3），工業材料（機械2），機械材料学Ⅰ（電子制御3），機械材料学Ⅱ（電子制御4），電気・電子材料学（電子制御5）。 関連科目：科学探究（専2），材料強度学（専2）。 受講上のアドバイス：理学分野における分析機器に関する学習前知識は必要ないが，好奇心を持ち積極的に新しい知識の獲得を目指してほしい。分析機器の基本的な利用目的および原理が理解できるように自主的に学習しなければならない。授業開始後15分を過ぎて入室した場合，欠課として扱う。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス，自動車（ボディ・エンジン），航空機（授業時間外の学習：課題（1）航空機材料開発について）		航空機材料開発	
		2週	新幹線，パソコン筐体，金型（授業時間外の学習：課題（2）マグネシウム合金について）		マグネシウム合金	
		3週	タービンブレード，スペースシャトル，インナーウェア（授業時間外の学習：課題（3）耐熱材料・形状記憶合金について）		耐熱材料・形状記憶合金	
		4週	切削工具，ナノ・マイクロ部品（授業時間外の学習：課題（4）金属ガラスについて）		金属ガラス	
		5週	液晶・プラズマディスプレイ，ハードディスクドライブ（授業時間外の学習：課題（5）記憶装置に用いられる材料開発について）		記憶装置に用いられる材料開発	

		6週	発光ダイオード，半導体レーザー，インバータ（授業時間外の学習：課題（6）光源となる材料開発について）	光源となる材料開発
		7週	光式スイッチ，電磁モータ，磁歪式音波探査センサ（授業時間外の学習：課題（7）光を感じる材料，磁性材料開発について）	光を感じる材料，磁性材料開発
		8週	超音波エコー・非破壊検査装置，圧電アクチュエータ，通信機用フィルタ（授業時間外の学習：課題（8）圧電材料開発について）	圧電材料開発
	4thQ	9週	結晶シリコン・アモルファスシリコン・化合物系太陽電池（授業時間外の学習：課題（9）化合物系太陽電池開発について）	化合物系太陽電池開発
		10週	熱電変換素子・ペルチエ素子，機能性タイル，超伝導マグネット（授業時間外の学習：課題（10）光触媒の開発について）	光触媒の開発
		11週	高温超伝導線材，リチウムイオン二次電池，機能性電極（授業時間外の学習：課題（11）金属系超伝導材料開発について）	金属系超伝導材料開発
		12週	燃料電池，海水淡水化システム（授業時間外の学習：課題（12）逆浸透膜開発について）	逆浸透膜開発
		13週	生体・医療分野における機能性材料（授業時間外の学習：課題（13）人工関節・人工心臓の開発について）	人工関節・人工心臓の開発
		14週	スポーツ分野における機能性材料（授業時間外の学習：カーボンファイバーの開発について）	カーボンファイバーの開発
		15週	（前期期末試験）	
		16週	まとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	20	20	0	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	20	0	60	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	先端技術特別講義	
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材	必要に応じて参考資料を配布						
担当教員	野村 健作						
到達目標							
学習目的：日進月歩の技術の動向を知るとともに，社会における技術の重要性を認識することにより，研究や学習の新たな展開を図るための一助とする。							
到達目標 1．先端技術の動向を知り，世の中で求められている技術や工学の内容を理解し，その概要を適切に説明できる。 2．社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響を考慮し，先端技術の方向に関して，自らの考えや意見が言える。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	講演内容について，十分に調査し，その内容も含め模範となる課題レポートを作成することができる。		講演内容について，調査し，その内容も含め課題レポートを作成することができる。		課題について，課題に応じたレポートを作成することができる。		左記に達していない。
評価項目2	社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響を考慮し，自らの考えや意見を十分に含めた模範となるレポートが作成できる。		社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響を考慮し，自らの考えや意見を含めたレポートが作成できる。		レポートに対して，自らの考えや意見を含めることができる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：自然科学系共通・基礎 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学/社会科学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(6)校外実習，先端技術特別講義や学協会への参加を通じて，地域社会との連携を図るとともに，地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化，A-1:工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「G-1」にも関与する。内容は多岐にわたるので，場合により地球的視野に立った人間性の育成や地域社会との連携による総合的能力の展開にも関連する。 授業の概要：学生の専門に直接関係する内容や，周辺の各分野における最先端の技術動向ならびに研究状況を知るための特別講義である。知識を深めるとともに視野を広げ，社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響について広く学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業の方法：専攻科の指定する講演会・研修会・遠隔授業等の中から主体的に課題を選択し，これに参加するとともに，指定された課題を仕上げる。専攻科ホームページおよび電子メールで案内を流すので，見落とさないようにすること。 成績評価方法：個々の課題ごとに担当教員が個別に明示するが，主に講義後の課題に関するレポートの評価による。本科目として開催される7回以上の講義等に参加し，4回以上の小課題を提出し合格点をもらうこと。4回以上の小課題で合格点をもらった場合は，成績の良いものから4つの平均点をもとに，年度末の専攻科運営委員会で最終の単位認定を行う。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。この科目は特別講義であり，講義では短い時間にエッセンスが話されるのみであることを自覚し，講義以外の学習にも時間をかけると共に，課題に対しても十分な時間をかけて取り組むこと。 履修のアドバイス：幅広いテーマについて実施されるので，狭い専門にこだわることなく知見を広げるように努力することが大切である。 基礎科目 これまで学んできた知識全般 関連科目：全ての科目 受講上のアドバイス：本科目は原子力人材育成関連科目である。主として，外部講師による授業となるので，受講に際しては本校学生として礼を失しないように十分注意すること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス（年度初めのオリエンテーションで実施）				
		2週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加				
		3週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加				
		4週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加				
		5週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加				
		6週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加				

後期		7週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加	
		8週	担当教員の指定する講演会・研修会・遠隔授業などへの参加	
	2ndQ	9週	上記の講義等に7回以上参加する必要がある	
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	100	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	システム制御工学	
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	テキストとなる資料を配布する。						
担当教員	八木 秀幸						
到達目標							
学習目的：伝達関数で表現されたシステムに対して時間領域で表現された状態空間モデルについて説明でき、システムの可制御性と可観測性の概念を理解する。							
到達目標： 1.実在システムから状態変数モデルが構築できる。 2.状態方程式の解法を知り、解を求めることができる。 3.可制御、可観測について理解し、系の可制御、可観測性が判定できる。 4.状態フィードバックによって系の極を指定できる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	複雑な問題に対し状態空間モデルの理論を適用することができる。		状態空間モデルに関する理論を理解できる。		状態空間モデルに関する基礎的な理論を理解できる。		左記に達していない。
評価項目2	状態方程式の座標変換に関して発展的に理論を適用できる。		状態方程式の座標変換を理解できる。		状態方程式の基礎的な座標変換を理解できる。		左記に達していない。
評価項目3	システムの可制御性と可観測性の概念に関して発展的に理論を適用できる。		システムの可制御性と可観測性の概念に関する理論を理解できる。		システムの可制御性と可観測性の概念に関する基礎的な理論を理解できる。		左記に達していない。
評価項目4	応用的な問題に対し、状態フィードバックによる制御系設計理論を適用できる。		状態フィードバックによる制御系設計について理解できる。		状態フィードバックによる基礎的な制御系設計について理解できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門・情報・制御 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学/電気電子工学/制御工学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(2)専門技術分野の知識を修得し、機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化、A-1：工学に関する基礎知識として、自然科学の幅広い分野の知識を修得し、説明できること」である。 授業の概要：本講義では、モデル化されたシステムを現代制御理論により解析する。これらシステムの安定論、可制御・可観測性、構造解析など状態方程式を基に統一的に論ずる。						
授業の進め方・方法	授業の方法：複雑なシステムのモデル化から制御設計手法まで、「倒立2輪車両ロボット」の制御モデル例を交えながら講義する。更に、理解が深まるように、レポート課題を課す。 成績評価方法：定期試験の結果を評価する（70％）。レポート課題などの提出物の内容を評価する（30％）。レポート課題の提出期限が守られていない場合は、最大20％までの評価とする。 理解度が不十分であると感じられる部分は補講を行い、再試を行う場合もある。再試の結果は上限60点として定期試験結果に入れる。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：本科制御工学で学んだ内容を理解していることが望ましい。 基礎科目：制御工学（電気電子、情報4）、制御工学特論（電気電子5）など 関連科目：線形代数学（専1年）、回路網解析（専2）など 受講上のアドバイス：本講義では線形代数の知識を駆使することになる。行列演算等はコンピュータを用いて効率的に計算できるが、基本的な計算はハンドワークによって確認する必要がある。また、与えられる課題を遅延なくこなすことも重要である。 授業の開始時に欠席をとり、その際返事がなく、その後入室をしてきた者は遅刻とする。遅刻3回で1回の欠席とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	・ガイダンス				
		2週	・動的システムと状態方程式				
		3週	・システムモデルと線形化（1）				
		4週	・システムモデルと線形化（2）				
		5週	・システムモデルと線形化（3）				
		6週	・システムモデルと線形化（4）				
		7週	・状態方程式の解とその解法				
		8週	・可制御性、可観測性と判定法				

	4thQ	9週	・システムの座標変換（１）	
		10週	・システムの座標変換（２）	
		11週	・線形システムの構造解析	
		12週	・システムの安定性とその判別	
		13週	・状態フィードバックによる極指定	
		14週	・出力フィードバックによる極指定	
		15週	期末試験	
		16週	・答案の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	生産管理工学
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：坂本賢也「生産管理入門」（理工学社）,「産業財産権標準テキスト：特許編」（発明協会）					
担当教員	眞鍋 由雄					
到達目標						
学習目的:各管理項目を理解すると同時に、各項目における具体的な問題をどのようにして解決するかを考えながら生産管理システムを修得する。 。特許の重要性を理解し、自分で明細書を書けるようになる。						
到達目標 1.企業における生産管理システムの概要を説明できる。 2.企業盛衰の大きなファクターである品質管理法の基本を説明できる。 3.具体的に特許案を作成して、特許明細書の書き方を修得する。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
生産管理システムの概要	生産管理システムの目的、意義を示し必要な複数の管理手法について詳細に説明できる。	生産管理システムの目的、意義を理解し基本的な管理手法について説明できる。	生産管理システムの基本的な管理手法について説明できる。	左記に達していない。		
品質管理法	品質管理の意義を理解し用いられる管理手法を詳細に説明できる。品質管理の意義を理解し用いられる管理手法を詳細に説明できる。	品質管理の意義を理解し基本的な手法について説明できる。	品質管理の基本的な手法について説明できる。	左記に達していない。		
特許明細書の書き方	知的財産権と出願プロセスについて理解し、質の高い特許明細書を作成できる。	知的財産権の基本的な考えを理解し特許明細書を書くことができる。	知的財産権の基本的な考えと、特許明細書の内容を説明できる。	左記に達していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別・学習の分野:専門・自然科学系基礎共通 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：機械工学・制御工学・電気電子工学・情報工学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(2)専門技術分野の知識を修得し、機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化、A-1：工学に関する基礎知識として、自然科学の幅広い分野の知識を修得し説明できること」であるが、付随的には「D-1」も関与する。 授業の概要：企業では生産活動を統制し、生産力を最高に発揮させるために「生産管理」の手法が用いられる。本講義は生産管理の概要を学ぶ。また、特許明細書の書き方を知り、実際に作成する。					
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心に進めていくが、単なる知識の修得に留まらないために、各管理項目における具体的な問題を提起し、解決方法を考えながら学習していく。理解が深まるように便宜レポート課題を課す。各自が作成した特許案を発表させ、デザイン能力の育成を図る。 成績評価方法：レポート課題は、指定した期日までに必ず提出すること。プレゼン発表(20%)、レポート課題（40%）、小テスト(40%)、で評価する。定期試験は実施しない。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：教科書以外に品質・信頼性に関するテキストを自主的に勉強すること。また特許を書くにあたって発明協会の「産業財産権標準テキスト」を十分に読むこと。 基礎科目：応用数学Ⅰ（全学科4年） 関連科目：専攻科で学習する科目全般					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	・ガイダンス, 知的財産権とは	それぞれ以下の内容について理解する, 知的財産権の用語		
		2週	・特許制度	国内外の特許制度のしくみ		
		3週	・特許シーズ検討会			
		4週	・請求範囲, 請求項	特許明細書の請求範囲, 請求項		
		5週	・特許調査, 特許マップ	特許マップ		
		6週	・特許明細書作成	特許明細書		
		7週	・特許発表会	特許の要点発表		
		8週	・生産管理とは	生産管理の用語		
	2ndQ	9週	・企業と組織	企業と組織の用語		
		10週	・生産管理システム	生産管理システムに関する用語		
		11週	・工程管理	工程管理に関する用語		

	12週	・品質管理とは	品質管理の用語
	13週	・品質管理（統計手法）	品質管理の統計手法
	14週	・原価管理	原価管理の統計処理方法
	15週	・環境管理	・環境管理に関する管理手法
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	20	0	0	40	40	100
基礎的能力	0	10	0	0	20	20	50
専門的能力	0	10	0	0	20	20	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	長期インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	0030			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	実習先で配布される資料等						
担当教員	野村 健作						
到達目標							
学習目的：インターンシップの目的は、実社会の技術と遊離しないように、知識を深め、研究能力の向上を目指すことである。専攻科では特別研究の一環として30 時間程度の校外実習を義務付けている。しかし30 時間という短い時間では習得できない項目が多くあると考えられ、長期のインターンシップ（4 週間程度、140 時間程度）を選択科目（2 単位）として、上記の短期校外実習と選択できるようにした。							
到達目標							
1. 社会との連携した学習や研究などの協働活動をととして、専門的視点から実習内容を説明できる							
◎技術者が社会に負っている責任と独創性を認識できる							
◎協働活動をととして自己の役割を理解するとともに他者に適切に働かけるためのコミュニケーションができる							
◎企業活動を通じて、自らのキャリアデザインができる							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	専門的視点から実習内容を報告書と発表で説明でき、実習内容を十分に理解してもらえる。		専門的視点から実習内容を報告書と発表で説明でき、実習内容を理解してもらえる。		実習内容を報告書と発表で説明できる。		左記に達していない。
評価項目2	企業の社会に負っている責任と独創性を理解し、十分に説明することができる。		企業の社会に負っている責任と独創性を理解し、説明することができる。		企業の社会に対する責任を示すことができる。		左記に達していない。
評価項目3	実習を通して、自己の役割を理解して、他者と十分なコミュニケーション（発表等）ができる。		実習を通して、自己の役割を理解して、他者とコミュニケーション（発表等）できる。		実習を通して、他者とコミュニケーション（発表等）できる。		左記に達していない。
評価項目4	企業経験を生かし、自らのキャリアを計画的に考え、十分に説明できる。		企業経験を生かし、自らのキャリアを計画的に考え、説明できる。		企業経験を生かし、自らのキャリアについて説明できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：実験・実習 基礎となる学問分野：工学／機械・電気電子・電子制御・情報工学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(6)校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目の学習・教育到達目標は主として「(H) 地域社会との連携による総合能力の展開、H-1：地域社会との連携した学習や研究などの協働活動をととして、専門分野を理解し（もしくは専門的観点から生産システムを理解し）、説明できること」であるが、付随的に「F-1」、「A-2」、「D-3」および「G-1」にも関与する。 授業の概要：企業等学外機関において実質 4 週間程度もしくは140 時間程度の実習を行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法：企業等において実際の業務に携わり、実習を行う。学内で実習終了後に審査会を実施する。 成績評価方法：企業からの評価シート(60%)、報告書（20%）および発表会（20%）で評価する。						
注意点	履修上の注意：実習に行く際には必ず保険に加入すること。 履修のアドバイス：会社の規律は必ず守ること。実習生の評価は学校の評価につながり就職にも影響する。 基礎科目：これまで学習してきた科目全般 関連科目：特別研究Ⅰ、Ⅱ（専1、2年）						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	● ガイダンス(学年初め) ● 研修企業の決定 ● 担当教員・企業担当者との実習内容の確認 ● 報告会の準備(夏季休業終了後) ● 実習内容の報告および審査				
		2週	企業等における実習 4 週間程度、140 時間程度実習に参加すること。				
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	報告書	課題	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	40	10	15	0	0	0	65	
分野横断的能力	20	10	5	0	0	0	35	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	地域連携演習
科目基礎情報						
科目番号	0031		科目区分		専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2	
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	教科書, 教材等 各種行事の開催案内, 講座のテキスト等					
担当教員	中村 重之					
到達目標						
学習目的:地域密着型の教育機関である本校の果たすべき役割を知るとともに小中学生に科学・技術や実験の面白さを伝えることにより, 各自の知識や技術を再確認し研究や学習の新たな展開を図るための一助とする。 地域企業等からの依頼による課題の解決に寄与する。						
到達目標 ◎地域社会と連携した協働活動を通じて, クライアントの要求を解決するために創案した設計解を実践して評価できる ◎一般市民にも専門的な知識や技術を分かりやすく説明, 伝えることができる						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	クライアントの要求を解決するために創案した設計解を実践して評価でき るだけでなく, 新たな問題提起・提案ができる。	地域社会と連携した協働活動を通じて, クライアントの要求を解決するために創案した設計解を実践して評価できる。	地域社会と連携した協働活動を通じて, クライアントの要求を解決するために創案した設計解を実践できる。	クライアントの要求を解決するために創案した設計解を実践できない。		
評価項目2	自ら教材を提案・作製し, 一般市民にも専門的な知識や技術を分かりやすく説明し伝えることができる。	与えられた教材を用いて, 一般市民にも専門的な知識や技術を分かりやすく説明し伝えることができる。	与えられた教材を用いて, 一般市民にも専門的な知識や技術を説明し伝えることができる。	与えられた教材を用いても一般市民に専門的な知識や技術を説明し伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別:専門 学習の分野:自然科学系共通・基礎 必修・選択の別:選択 基礎となる学問分野:工学・社会科学 専攻科学学習目標との関連:本科目は専攻科学学習目標「(6)校外実習, 先端技術特別講義や学協会への参加を通じて, 地域社会との連携を図るとともに, 地球的視点からものを見ることの大切さを理解していること」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連:本科目の学習・教育到達目標は主として「(H) 地域社会との連携による総合能力の展開, H-1: 地域社会との連携した学習や研究などの協働活動をとおして, 専門分野を理解し (もしくは専門的観点から生産システムを理解し) , 説明できること」であるが, 付随的には「A-1」, 「D-3」にも関与する。内容は多岐にわたるので, (B) 地球的視野に立った人間性の育成, (F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成にも関連する。 授業の概要:今まで学習してきた知識や技術を活かして, 公開講座等を通じて地域社会に貢献する。知識を深めるとともに視野を広げ, 社会とのかかわりや技術が社会に及ぼす影響について広く学ぶ。					
	授業の方法:本校の関わる公開講座や出前授業, オープンキャンパス, 地域イベント等へ積極的に参加して担当教員に協力し, 実施後に指定された報告書を提出する。 成績評価方法:単位認定願の提出があった者に対し, 行事の報告書 (レポート) により評価する。評価は「合否」とし, 年度末の専攻科運営委員会を経て単位認定を行う。					
注意点	履修上の注意:本科目は「授業時間外の学習を必修とする」科目である。従って30単位時間の授業 (演習) と授業以外に15単位時間の学習が必修となる。 履修のアドバイス:各自の専門を活かして地域社会に貢献するとともに, これにより知見を広げる努力をすることが大切である。 2年間に亘って履修可能な科目である。 基礎科目:これまで学習してきた科目全般 関連科目:全ての科目 受講上のアドバイス:主として, 地域社会と関わる授業となるので, 実施に際しては本校学生としての自覚を持って行動すること。 自分の専門分野以外にも積極的な協力を期待している。本科目の関係する行事等は担当教員に確認すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行事への支援 30時間以上			
		2週	● 本校の関わる公開講座や出前授業, オープンキャンパス, 地域イベント等での指導と支援			
		3週	● 複数の行事に合計30時間以上協力し, 決められた報告書 (レポート) を提出すること(実施時間に移動時間は含めない) 。			
		4週	合 計 30時間以上			
		5週				

		6週	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項) : ● 行事の予習, 準備, 後片付け (準備日を設けて準備を行った場合は, 授業時間を含めても良い) ● 決められた報告書の作成 (書式は別途指示)	
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	報告書	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	70	0	0	0	0	0	70

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国際コミュニケーション演習	
科目基礎情報							
科目番号	0032		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材	各種行事の開催案内, 研修のテキスト等						
担当教員	小西 大二郎						
到達目標							
学習目的: 英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに地球上の多様な文化や習慣等への理解を深める。国際的に活躍できる技術者としての自覚を育てる。							
到達目標 1. 英語で相手の考えを理解し, 自分の考えや専門的な知識・技術を分かりやすく説明, 伝えることができる。 2. 国際感覚を身に付け, その成果をまとめることができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	技術者や一般市民など, コミュニケーションの対象者によらず英語で相手を理解した上で, 説明の方法を工夫しながら, 自分の意見や考え方をわかりやすく伝え, 十分な理解を得ることができる。		英語で相手を理解した上で, 説明の方法を工夫しながら, 自分の意見や考え方を伝え, 理解を得ることができる。		英語で効果的な手順・手段を用いて分かりやすく言える。		英語で効果的な手順・手段を用いて分かりやすく言えない。
評価項目2	文化の違いや価値観の違いを理解し, 多面的な見方や考え方ができ, 「新しく得た情報」と「過去の知識」とを組み合わせる新しい発想ができる。		文化の違いや価値観の違いを理解し, 「新しく得た情報」と「過去の知識」とを関連付けながら考察できる。		「新しく得た情報」と「過去の知識」との関連付けができる。		「新しく得た情報」と「過去の知識」との関連付けができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別: 専門 学習の分野: 自然科学系共通・基礎 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 外国語・工学 本科目は専攻科学学習目標「(6) 校外実習, 先端技術特別講義や学協会への参加を通じて, 地域社会との連携を図るとともに, 地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成, F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」であるが, 付随的には「B-2」にも関与する。 授業の概要: 本校が関係する国際交流事業に参加し, 今まで学習してきた知識や技術をもとに国際的な視野を拡げ, 英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。						
授業の進め方・方法	授業の方法: 本校の関わる国際交流事業へ積極的に参加して自己研鑽に努めるとともに, 参加後に指定された報告書を提出する。特別研究の一環として行う国際会議等での発表は, 本演習には該当しない。 成績評価方法: 行事の報告書(レポート)により評価する。評価は「可否」とし, 年度末の専攻科運営委員会を経て単位認定を行う。単位認定願の提出が必要である。						
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。従って30単位時間の授業(演習)と授業以外に15単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 平素から異文化や英語についての関心を拡げるとともに, 本校が関係する国際交流事業に積極的に参加し努力することが大切である。2年間に亘って履修可能な科目である。 基礎科目 これまで学んできた科目全般, 特に英語 関連科目: 実践英語Ⅰ(専1年)・Ⅱ(専2), 技術英語講読(専1), 特別研究Ⅰ(専1)・Ⅱ(専2) 受講上のアドバイス: 主として, 社会と関わる授業となるので, 参加に際しては本校学生としての自覚を持って行動すること。安全には十分心掛けて行動すること。本科目の関係する国際交流行事は担当教員に確認すること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行事への参加 30 時間以上				
		2週	本校の関わる国際交流事業への参加(発表の機会があれば積極的に行うこと)				
		3週	行事に合計30時間以上参加し(複数の行事でも良い), 決められた報告書(レポート)を提出すること(移動時間は演習時間に含めない)。当該事業の参加報告を行った場合には, その発表資料で報告書の演習概要に代えることができる。				
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					

	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	機械・制御システム特別研究II
科目基礎情報					
科目番号	0033	科目区分		専門 / 必修	
授業形態	実験	単位の種別と単位数		履修単位: 8	
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年		専2	
開設期	通年	週時間数		8	
教科書/教材					
担当教員	井上 浩行,佐藤 紳二,加藤 学,細谷 和範,野中 摂護,小林 敏郎				
到達目標					
学習目的：工学的あるいは技術的な課題を見出す能力，またその課題を具体的に解決する能力を修得し，技術者としての基本的な素養やデザイン能力を身につける。					
到達目標					
1．専攻する技術分野について，ICTやICTツールを活用して情報を収集・分析して，先端技術の動向を把握するとともに，研究目的を理解する。					
2．研究遂行計画を主体的に立案するとともに，実験・解析を具体的に実行して結果の妥当性を評価できる。					
3．研究成果の学会等での発表や校外実習を通じて多くの技術者と自由に意見交換や交流ができる。					
◎ 4．技術者が社会に負う責任を認識するとともに，企業活動を多面的に判断した対応力をもち，地域社会や広く世の中に貢献できる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	必要な情報の収集と整理・分析により関連の技術・研究動向が理解でき,これらと関連させて研究目的を理解できる。	自分で調査して得た文献・資料などをもとに,情報が正しいかどうか考え,活用できる。	自分で調査して得た文献・資料などの内容を言える。	自分で調査して得た文献・資料などの内容を言えない。	
評価項目2	工学上の問題解決のために特別な研究計画を立てることができ,データを分析し論理的に説明することができる。	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価方法・結果を論理的に説明することができる。	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価方法・結果を言えない。	
評価項目3	効果的なプレゼンテーションの基本的なパターンを使って,制限時間内で,相手に分かりやすく説明した上で,自分の意見を効果的に伝えられる。	プレゼンテーションの基本的なパターンを使って,発表ができる。	プレゼンテーションの基本的なパターンを知っている。	プレゼンテーションの基本的なパターンを知らない。	
評価項目4	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し,技術者が社会に負っている責任を理解でき,自身の将来にわたるキャリアデザインを明確化し,多面的な基準から企業との適正を評価できる。	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し,技術者が社会に負っている責任を理解でき,技術者として成長していく自分を意識し,継続的な自己研さんができる。	技術者が社会に負っている責任を言える。	技術者が社会に負っている責任を言えない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：実験・実習				
	必修・履修・履修選択・選択の別：必修				
	基礎となる学問分野：工学／機械工学・制御工学				
	専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(4)特別研究を自主的，積極的に推進することにより，技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力，すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力，研究能力を身につけるとともに，研究結果を学会などで発表し，他の研究者や技術者との交流を通じて，プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。				
概要	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(E) 研究能力の育成,E-1:工学現象を解析するための科学的な実験の計画・遂行・考察ができ，応用できること」であるが，付随的には「A-3」，「C-1」，「D-1」，「D-3」，「E-2」，「E-3」，「F-1」，「G-2」，「H-1」にも関与する。また，本科目ではデザイン能力の中の構想力，問題設定能力，公衆の健康・安全，文化，経済，環境，倫理等の観点から問題点を認識する能力，およびこれらの問題点などから生じる制約条件下で解を見出す能力，構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現する能力，継続的に計画し，実施する能力の育成に関与する。なお，本科目に関連して技術者倫理に関する講演会を必ず聴講すること。				
	授業の概要：機械・制御システム特別研究Ⅰの単位を取得し，この科目を前提に，専攻科における1，2年次の学修の総括を，研究活動を通して総合的にまとめる科目である。特徴ある研究課題に取り組むことにより，自主的な問題発見能力と課題解決能力の養成を目的とし，知識の深化と研究開発能力を体得する。成果は修士論文として提出され，必要に応じて学会等での外部発表を行う。きめ細かな指導を行い，企業等との共同研究も積極的に取り入れる。				
授業の進め方・方法	授業の方法：1 週3日にわたり合計12単位時間が設定されている。指導教員のもとで，研究テーマごとに主体的に実験または解析的研究を行う。取り組みの中で，工学的研究の進め方，科学技術論文の書き方，発表・討論の仕方を適宜指導・助言する。				
	成績評価方法：授業計画で示されている条件を満たしていることを前提に，報告書査読教員や発表審査教員等の複数の特別研究担当教員により評価する。評価に当たっては，特別研究発表会での発表（50％），特別研究報告書(50％)とし，教育プログラムの (A) および (C) ～ (H) の各項目に対して，発表と報告書で達成度を評価し，それぞれ合計評価点の6割以上をもって合格とする。評価点が合格点に達しない場合は，指導を行い，再評価を行うことがある。				

	履修上の注意：なし						
注意点	履修のアドバイス：極めて多くの時間が割当てられている。与えられた環境の中で最大の成果が出るように、自主的に研究活動を行うこと。						
	基礎科目：これまで学習してきた科目全般						
	受講上のアドバイス：本科目は専攻科における最も重要な主となる科目である。したがって、あらゆる面で主体性を持って全力で取り組むことが求められる。また、大学評価・学位授与機構から「学士」を取得する際には、「学修総まとめ科目履修計画書」と「学修総まとめ科目の成果の要旨等」の提出が必要である。これらはいずれも特別研究の内容が基盤となることを念頭に研究活動を進める必要がある。なお、前後期終了後に研究実施記録簿の提出を行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	研究テーマと研究計画				
		3週	研究テーマと研究計画				
		4週	研究テーマと研究計画				
		5週	研究テーマと研究計画				
		6週	研究テーマと研究計画				
		7週	研究テーマと研究計画				
		8週	研究テーマと研究計画				
	2ndQ	9週	テーマ発表会				
		10週	実験・解析の試行と検証				
		11週	実験・解析の試行と検証				
		12週	実験・解析の試行と検証				
		13週	実験・解析の試行と検証				
		14週	実験・解析の試行と検証				
		15週	実験・解析の試行と検証				
		16週	実験・解析の試行と検証				
後期	3rdQ	1週	実験・解析の試行と検証				
		2週	実験・解析の試行と検証				
		3週	実験・解析の試行と検証				
		4週	実験・解析の試行と検証				
		5週	実験・解析の試行と検証				
		6週	実験・解析の試行と検証				
		7週	実験・解析の試行と検証				
		8週	実験・解析の試行と検証				
	4thQ	9週	実験・解析の試行と検証				
		10週	実験・解析の試行と検証				
		11週	実験・解析の試行と検証				
		12週	実験・解析の試行と検証				
		13週	論文の執筆				
		14週	論文の執筆				
		15週	特別研究発表会				
		16週	論文の執筆				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	40	0	0	50	0	90
分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	10

津山工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	流体力学
科目基礎情報				
科目番号	0034	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書：古川明德，瀬戸口俊明，林秀千人「流れの力学」（朝倉書店）			
担当教員	佐藤 紳二			
到達目標				
学習目的：流体に関する諸問題や現象を理論的に解析する基礎能力を修得する。				
到達目標 1 理想流体（完全流体）の力学に関する基礎理論を理解し，これに関連する諸問題に応用できる。 2 粘性流体の力学に関する基礎理論を修得する。 3 圧縮性流体の力学に関して，自学に必要な基礎事項を修得する。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安(良)	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1	理想流体（完全流体）の力学に関する基礎知識（複素ポテンシャル等）を導出・理解でき，これを複雑な流れに適用・解析できる。	理想流体（完全流体）の力学に関する基礎知識（複素ポテンシャル等）が理解できていて，これを用いて基本的な流れを解析できる。	理想流体（完全流体）の力学に関する基礎知識（複素ポテンシャル等）が理解できていて，これを説明できる。	理想流体（完全流体）の力学に関する基礎知識が理解できていない。
評価項目2	粘性流体力学の基礎（相似則，層流と乱流，ナビエーストークスの方程式等）の理解に留まらず，これを自ら導出することができ，なおかつ諸問題に適用・応用できる。	粘性流体力学の基礎（相似則，層流と乱流，ナビエーストークスの方程式等）が理解できていて，これを用いて基本的な流れを解析できる。	粘性流体力学の基礎（相似則，層流と乱流，ナビエーストークスの方程式等）が理解できていて，これを説明できる。	粘性流体の力学に関する基礎知識が理解できていない。
評価項目3	圧縮性流体の力学に関して，熱力学との関連性や高速流体の取り扱い等を理解し，これを圧縮性流体の諸問題に適用して，流れを解析できる。	圧縮性流体の力学に関して，熱力学との関連性や高速流体の取り扱い等の基礎事項が理解できていて，これを用いて基本的な流れを解析できる。	圧縮性流体の力学に関して，熱力学との関連性や高速流体の取り扱い等，自学に必要な最低限の基礎事項が理解できている。	圧縮性流体の力学に関して，自学に必要な最低限の基礎事項が理解できていない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：エネルギーと流れ 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学/機械工学/流体力学 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学習・教育目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し，機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A-2：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」である。 授業の概要：本科の流体力学では現象の物理的意味を明確にするとともに，水力学的アプローチからの説明を中心とした。これに対して本科目では流体力学的アプローチからの説明を中心とする。具体的には，理想流体（完全流体）および粘性流体の力学に関する基礎式の導出と解説を行う。なお圧縮性流体の力学については熱力学との関連性を概説するに留める。			
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心に，理想流体および粘性流体の力学に関する基礎式の導出と解説をしながら，授業を進める。可能な限り，教科書の例題について，板書・配布プリントなどを用いて説明する。また，理解が深まるように，レポート課題を課す。 成績評価方法：試験（70％），授業時間外の学習成果（30％）。「試験は原則1回であるが，状況により再試験を行うことがある。再試験は本試験と同等に評価する」。試験には配付資料，自筆ノートと電卓の持ち込みは許可する。レポート課題は，指定した期日までに必ず提出すること。			
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：予備知識として数学の知識がかなり必要とされる（特に複素関数）。良く復習・自学しておくこと。また可能な限り，教科書の例題について説明するが，授業で説明できなかった例題については各自で学習し，理解を深めること。 基礎科目：流体力学（M・S4年），熱力学（M・S4），応用物理Ⅰ（3），数学特論（5）など 関連科目：計算力学（専2年） 受講上のアドバイス：授業時間以外の学習（予習と復習およびレポート課題）は，行なわなければならない。授業で習った知識を身に付けるためにもノートの整理や課題の考察は重要である。定期試験では，ノートの持込を許可するので，基礎事項を除き，暗記中心の学習は必要ない。考え方や内容の理解の修得に重点を置いて学習すること。なお，遅刻については，各時間の半分を経過するまでは遅刻として扱うが，それ以降は欠課として扱う。			
授業計画				

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 流体の性質	流体力学の基礎として、粘性等の流体の性質の基礎事項を理解する。
		2週	流体粒子の変形, 応力と変形速度の関係	流体力学の基礎として、応力と流体粒子の変形に関する基礎事項を理解する。
		3週	流体力学の基礎〔質量の保存則, エネルギー保存則〕 授業時間外の学習内容: レポート課題 (1) 「動水力学の基礎」	質量保存則・エネルギー保存則の基礎を理解する。
		4週	非粘性流れの基礎〔流れ関数, 速度ポテンシャル, 複素ポテンシャル〕	流れ関数・速度ポテンシャルの概念とし、これらで構成される複素ポテンシャルについて理解する。
		5週	ポテンシャル流れの簡単な例〔一様流, 吹き出し・吸い込み〕	一様流、吹き出し・吸込みについて、理想流体としての扱い方（解析法）を理解する。
		6週	ポテンシャル流れの簡単な例〔渦〕 授業時間外の学習内容: レポート課題 (2) 「流れ関数・速度ポテンシャル・複素ポテンシャル」	渦について、理想流体としての扱い方（解析法）を理解する。
		7週	ポテンシャル流れの簡単な例〔円柱周りの流れ〕	円柱周りの流れについて、理想流体としての扱い方（解析法）を理解する。
		8週	鏡像	理想流体の解析法に関して鏡像法について理解する。
	2ndQ	9週	等角写像〔等角写像の証明, 写像関数の求め方〕 授業時間外の学習内容: レポート課題 (3) 「ポテンシャル流れの組み合わせ, 鏡像」	理想流体の解析法に関して等角写像について理解する。
		10週	等角写像〔等角写像の例, 平板翼等の周りの流れ〕	理想流体の解析法に関して等角写像について理解する。
		11週	翼理論（揚力・抗力, Blasiusの公式, Kutta-Joukowskiの定理, 渦列） 授業時間外の学習内容: レポート課題 (4) 「円柱・平板翼等の周りの流れ」	翼理論の基礎事項について理解する。
		12週	粘性流体力学の基礎（相似則, 層流, 乱流）	粘性流体の力学の基礎事項について理解する。
		13週	境界層・管内流れ 授業時間外の学習内容: レポート課題 (5) 「平板間・管内流れ」	平板間の流れや管内流れの扱い方（解析法）の基礎を理解する。
		14週	圧縮性流体	自学に必要な圧縮性流体の基礎と熱力学との関連を理解する。
		15週	期末試験	
		16週	試験の答案返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機能性材料学
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：これで使える 機能性材料パーフェクトガイド（講談社） 参考書：小原嗣郎「金属組織学概論」（朝倉書店），青木昌治「応用物性論」（朝倉書店），神藤欣一「機能材料の基礎知識」（産業図書）いずれも図書館所蔵					
担当教員	山口 大造					
到達目標						
学習目的：様々な分野（機械・エレクトロニクス・エネルギー・環境・生体・医療・スポーツなど）において用いられている各種機能性材料について，具体例から学習する。その過程において，材料一般に共通する結晶構造や性質について，物性論レベルで学習することにより，材料に生ずる諸現象を現象論的ではなく，本質的に理解できるようになる。それによって，機能性材料についてそれらの示す機能発現や用途について理解できるようにする。						
到達目標						
1．機能性材料の種類，性質，用途などに対する知識を得る。 2．材料に共通する結晶構造や性質について理解できる。						
ルーブリック						
		優	良	可	不可	
評価項目1		機能性材料の種類，性質，用途などに対する具体的な知識を持っている。	代表的な機能性材料の種類，性質，用途などに対する基本的な知識を持っている。	代表的な機能性材料の種類，用途に対する基本的な知識を持っている。	左記に達していない。	
評価項目2		材料に共通する結晶構造や性質について詳しく説明できる。	材料に共通する結晶構造や性質について基本的な事項を説明できる。	材料に共通する結晶構造や性質について基本的な事項を説明できる。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：材料と構造 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学 / 材料工学 / 構造・機能材料 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し，機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A-2:「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的にはA-1にも関与する。 授業の概要：工業的に用いられる材料は，大きく分類すると構造用材料と，機能性材料の二つになる。構造用材料については本科で学習済であるため，本科目では後者について解説する。					
授業の進め方・方法	授業の方法：主に板書・スライドによる講義を実施する。重要なキーワードについて理解を深化させるために課題を課す。 成績評価方法：レポート課題（60％），授業への取組姿勢（40％）で評価する。レポート課題の内容について厳密に評価する。参考文献として，論文を引用すること。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：数式を用いることは少ないが，化学反応や有機化学などの化学的知識を必要とすることが多いので，化学をよく学習しておくことが望ましい。 基礎科目：化学Ⅰ（2年），化学Ⅱ（3），工業材料（機械2），機械材料学Ⅰ（電子制御3），機械材料学Ⅱ（電子制御4），電気・電子材料学（電子制御5）。 関連科目：科学探究（専2），材料強度学（専2）。 受講上のアドバイス：解説する機能性材料は現在使われている機能性材料のほんの一部である。機能性材料についてそれらの示す機能発現や用途について理解できるように自主的に学習しなければならない。授業開始後15分を過ぎて入室した場合，欠課として扱う。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス，自動車（ボディ・エンジン），航空機（授業時間外の学習：課題（1）航空機材料について）		航空機材料について	
		2週	新幹線，パソコン筐体，金型（授業時間外の学習：課題（2）マグネシウム合金について）		マグネシウム合金について	
		3週	タービンブレード，スペースシャトル，インナーウェア（授業時間外の学習：課題（3）耐熱材料・形状記憶合金について）		耐熱材料・形状記憶合金について	
		4週	切削工具，ナノ・マイクロ部品（授業時間外の学習：課題（4）金属ガラスについて）		金属ガラスについて	
		5週	液晶・プラズマディスプレイ，ハードディスクドライブ（授業時間外の学習：課題（5）記憶装置に用いられる材料について）		記憶装置に用いられる材料について	

		6週	発光ダイオード，半導体レーザ，インバータ（授業時間外の学習：課題（6）光源となる材料について）	光源となる材料について
		7週	光式スイッチ，電磁モータ，磁歪式音波探査センサ（授業時間外の学習：課題（7）光を感じる材料，磁性材料について）	光を感じる材料，磁性材料について
		8週	超音波エコー・非破壊検査装置，圧電アクチュエータ，通信機用フィルタ（授業時間外の学習：課題（8）圧電材料について）	圧電材料について
	4thQ	9週	結晶シリコン・アモルファスシリコン・化合物系太陽電池（授業時間外の学習：課題（9）化合物系太陽電池について）	化合物系太陽電池について
		10週	熱電変換素子・ペルチエ素子，機能性タイル，超伝導マグネット（授業時間外の学習：課題（10）光触媒について）	光触媒について
		11週	高温超伝導線材，リチウムイオン二次電池，機能性電極（授業時間外の学習：課題（11）金属系超伝導材料について）	金属系超伝導材料について
		12週	燃料電池，海水淡水化システム（授業時間外の学習：課題（12）逆浸透膜について）	逆浸透膜について
		13週	生体・医療分野における機能性材料（授業時間外の学習：課題（13）人工関節・人工心臓について）	人工関節・人工心臓について
		14週	スポーツ分野における機能性材料（授業時間外の学習：カーボンファイバーについて）	カーボンファイバーについて
		15週	（前期期末試験）	
		16週	まとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	0	20	20	0	60	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	20	20	0	60	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	材料強度学
科目基礎情報						
科目番号	0036		科目区分		専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2	
開設期	前期		週時間数		2	
教科書/教材	教科書：プリント配布 参考書：阿部武治ほか「弾性力学」（朝倉書店），日本材料学会編「材料強度学」（日本材料学会），村上理一ほか「材料強度学入門」（星雲社）など					
担当教員	塩田 祐久					
到達目標						
学習目的：材料の連続体力学における一般的な定式化を理解し，材料の強度を支配している変形や破壊のメカニズムを理解する。						
到達目標： 1．弾性力学における定式化を理解する。 2．変形や破壊の種類と特徴を理解する。 3．巨視的な変形や破壊と微視的な組織や構造との関係を理解する。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	弾性力学における定式化を正確に理解し，導出できる。	弾性力学における基本的な定式化を理解している。	弾性力学における基本的な定式化について大部分を理解している。	左記に達していない。		
評価項目2	いろいろな変形や破壊の種類と特徴を正確に理解している。	基本的な変形や破壊の種類と特徴を理解している。	基本的な変形や破壊の種類と特徴の大部分を理解している。	左記に達していない。		
評価項目3	巨視的な変形や破壊と微視的な組織や構造との関係を正確に理解している。	巨視的な変形や破壊と微視的な組織や構造との基本的な関係を理解している。	巨視的な変形や破壊と微視的な組織や構造との基本的な関係の大部分を理解している。	左記に達していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：材料と構造 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学／材料工学／機械材料・材料力学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し，機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A－2：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を習得し，説明できること」であるが，付随的には「A－1」にも関与する。 授業の概要：材料強度学は，固体物理や金属組織学等のミクロな分野と材料力学等のマクロな分野とに関係している。本講義ではまず基礎として弾性力学について述べる。次に，材料の巨視的な変形や破壊の特徴を述べるとともに，それらのメカニズムを微視的な組織や構造に関係付けて説明する。					
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心に授業を進め，身近にある具体的な例をあげながら説明を行う。また，必要に応じてプリント等を配布する。その他にレポートを課す。 成績評価方法：定期試験（70％）：試験での持込は指定のもののみ。授業時間外の学習成果（課題）（30％）：課題は宿題とする。					
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 基礎科目：工業材料Ⅰ（機械1年），工業材料Ⅱ（機械2），機械材料学Ⅰ（電子制御3），機械材料学Ⅱ（電子制御4），材料力学Ⅰ（機械3），材料力学Ⅱ（機械4），材料力学Ⅰ（電子制御3），材料力学Ⅱ（電子制御4） 関連科目：機能性材料学（専2年） 履修のアドバイス：基礎科目欄に挙げた科目の基礎的な内容について復習しておくこと。 受講上のアドバイス：物が変形したり破壊したりする現象は身の回りで数多く起こっているのて，新聞記事やテレビのニュースなどを含めてそのような現象に日頃から注意しておくことが授業の理解の助けになる。また，乗り物や橋などの構造物を見たときは，その力のかかり方を考えてみるのもよい。授業時間の半分以上を過ぎて入室した場合，欠課として扱う。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	全体のガイダンス，前半のガイダンス（弾性力学について）			
		2週	応力について（定義，成分）	左の定義と定式化を確認		
		3週	応力成分の座標変換	左の定義と定式化を確認		
		4週	応力のつりあい方程式と境界条件	左の定義と定式化を確認		
		5週	ひずみについて（定義，成分）	左の定義と定式化を確認		
		6週	ひずみ成分の座標変換，ひずみの適合条件	左の定義と定式化を確認		
		7週	構成式	左の定義と定式化を確認		
		8週	後半のガイダンス（材料強度学とは）			
	2ndQ	9週	応力とひずみ，破損の法則	左の定義と適用		

	10週	き裂の力学	左の意味の理解
	11週	引張試験とデータ, 破壊の特徴	左の現象と力学量の理解
	12週	多軸応力下の破壊, 破壊じん性	左の定義と定式化を確認
	13週	疲労破壊, 高温における変形と破壊	左の現象と力学量の理解
	14週	環境強度と腐食	左の現象と力学量の理解
	15週	(前期末試験)	
	16週	前期末試験の答案返却と試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	振動工学
科目基礎情報						
科目番号	0037			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専2	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	教科書：谷口 修 「改訂 振動工学」（コロナ社），参考書：Timoshenko/Young/Weaver「新版 工業振動学」（コロナ社）					
担当教員	山本 吉範					
到達目標						
【学習目的】 振動対象をモデル化し，運動方程式を立てそれを解析する手法を修得する。また，機械力学の知識をさらに深化させる。						
【到達目標】 1． 1自由度の基本的な振動モデルの運動方程式が立てられ，解を求めることができる。 2． 分布定数振動系の振動現象と解析方法を理解し，活用できる。 3． 課題レポートを通じて具体的な振動現象を理解し，各種課題の解決に適用できる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	各種の1自由度の振動モデルの運動方程式が立てられ，解を求めることができる。	基本的な1自由度の振動モデルの運動方程式が立てられ，解を求めることができる。	基本的な1自由度の振動モデルの運動方程式が立てられる。	左記内容に達していない。		
評価項目2	各種分布定数振動系の振動現象を理解でき，解析できる。	基本的な分布定数振動系の振動現象を理解でき，解析できる。	基本的な分布定数振動系の振動現象を理解できる。	左記内容に達していない。		
評価項目3	課題レポートを通じて具体的な振動現象を理解できると共に各種課題の解決に適用できる。	課題レポートを通じて基本的な振動現象を理解できると共に解析ができる。	課題レポートを通じて基本的な振動現象を理解できる。	左記内容に達していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	【一般・専門の別】：専門 【学習の分野】：運動と振動 【必修・履修・履修選択・選択の別】：選択 【基礎となる学問分野】 工学/機械工学/機械力学・制御 【専攻科学習目標との関連】：本科目は専攻科学習目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し，機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 【技術者教育プログラムとの関連】：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A):技術に関する基礎知識の深化，A-2:「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」である。 【授業の概要】 近年，機械には省エネルギー化や高性能化が要求され，小型軽量化され，さらに高速で運転されるので振動や騒音を生じ易い傾向がある。これらは機械の性能低下や公害の原因にもなり社会問題化している。この授業では，これらの問題の原因となっている振動の基礎について講義し，振動現象の理解を深める。					
授業の進め方・方法	【授業の方法】 板書を中心に授業を進める。教科書に従って授業を進めるが，別の教材を用意して授業を進める場合もある。現実の問題をより多く例として取り上げ，解説する。また，理解が深まるように，レポート課題を課す。 【成績評価方法】 レポート課題は，指定した期日までに必ず提出すること。試験（70％）。レポート課題（30％）。「試験は原則1回であるが，総合評価が60点未満の者に対して再試験を行うことがある。ただし，再試験は本試験と同等に評価する。」試験には自筆ノートと電卓の持ち込みは許可する。					
注意点	【履修上の注意】 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 【履修のアドバイス】 本科目は，運動方程式の導出とその解析が主になるので，微分方程式や工業力学さらに機械力学の内容を復習しておくことが望ましい。 【基礎科目】 微分方程式（電子制御3年），工業力学（電子制御3），機械力学（電子制御4），微分方程式（機械工学科3年），工業力学（機械工学科3），機械力学（機械工学科5） 【関連科目】 計算力学（専2年），特別研究（専1，2），システム制御工学（専2） 【受講上のアドバイス】 授業時間以外の学習（予習と復習およびレポート課題）は，行なわなければならない。授業で習った知識を身に付けるためにもノートの整理や課題の考察は重要である。板書しなかった事項も含めてノートにまとめておけば有用になる。課題レポートは指定期限までに必ず提出すること。50分を越える遅刻は，1欠課と見なすので注意すること。					
授業計画						
	週	授業内容			週ごとの到達目標	

前期	1stQ	1週	ガイダンス（シラバスの説明を含む），減衰しない1自由度の自由振動	左記事項を理解し，説明できる。
		2週	減衰する1自由度の自由振動	左記事項を理解し，説明できる。
		3週	減衰のない場合の強制振動	左記事項を理解し，説明できる。
		4週	減衰のある場合の強制振動	左記事項を理解し，説明できる。
		5週	振動の伝達，変位による強制振動	左記事項を理解し，説明できる。
		6週	過渡振動	左記事項を理解し，説明できる。
		7週	2自由度系の振動	左記事項を理解し，説明できる。
		8週	連成強制振動	左記事項を理解し，説明できる。
	2ndQ	9週	自励振動	左記事項を理解し，説明できる。
		10週	自励振動と安定性	左記事項を理解し，説明できる。
		11週	弦の振動，棒のねじりおよび縦振動	左記事項を理解し，説明できる。
		12週	波動方程式の解	左記事項を理解し，計算できる。
		13週	無限自由度の定常振動の自由振動解	左記事項を理解し，計算できる。
		14週	はりの曲げ振動	左記事項を理解し，説明できる。
		15週	（前期末試験）	
		16週	答案の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	電気エネルギー工学	
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：「電気エネルギー概論」（オーム社）参考書：「発変電工学総論」（電気学会）配付資料（ http://www.tsuyama-ct.ac.jp/oke/contents/class.html ）						
担当教員	桶 真一郎						
到達目標							
学習目的：専攻科で学んだ知識や技術を企業や大学院において利用・応用するために、現代社会の基盤をなす電気エネルギーの需給や変換について幅広く理解すること。							
到達目標： 1．我が国および世界のエネルギー需給の現状と課題について説明できる。 2．水力、火力、原子力、および再生可能エネルギーを用いたエネルギー供給やその利用について説明できる。 3．各種の電気エネルギーに関する基本的な計算ができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	我が国および世界のエネルギー需給の概要や課題について説明できる。		我が国および世界のエネルギー需給の概要や課題について基本的な事項を説明できる。		我が国および世界のエネルギー需給の概要や課題についてとくに基本的な事項を説明できる。		左記に達していない。
評価項目2	水力、火力、原子力、および再生可能エネルギーを用いたエネルギー供給やその利用について説明できる。		水力、火力、原子力、および再生可能エネルギーを用いたエネルギー供給やその利用について基本的な事項を説明できる。		水力、火力、原子力、および再生可能エネルギーを用いたエネルギー供給やその利用についてとくに基本的な事項を説明できる。		左記に達していない。
評価項目3	各種の電気エネルギーに関する基本的な計算ができる。		各種の電気エネルギーに関するとくに基本的な計算ができる。		各種の電気エネルギーに関するとくに基本的かつ簡単な計算ができる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：機械とシステム 必修・必履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学／総合工学／エネルギー学，工学／電気電子工学／電力工学・電力変換・電気機器 学習・教育目標との関連：本科目は専攻科学習・教育目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門技術の知識を習得し，機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は(A)「技術に関する基礎知識の深化，「A-2」：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的にはA-1にも関与する。 授業の概要：水力，火力，原子力，および再生可能エネルギーによる電気エネルギーの発生原理や利用技術の現状と今後の課題について学ぶ。						
	授業の方法：教科書に基づき，グループで調べ学習をおこなう。毎回の授業の冒頭で，あらかじめ割り当てられた担当者がキーノートプレゼンをおこなう。参考とする配付資料は事前にwebで配布する。適宜，小テストや宿題を課す。 成績評価方法：成績の評価は，定期試験：50%，プレゼン：10%，レポート・小テスト等：40%とする。定期試験の結果が60点未満の者は，理解度の再確認により60点を上限として定期試験の点数を変更する場合がある。						
	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする」科目である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：プレゼン課題を課すので，割り当てに従って学習し発表すること。なお，本科目では専門分野の知識・能力だけでなく，ジェネリックスキルの向上に資する授業をおこなう。 基礎科目：電気工学（機械2年），電気基礎II（電子制御2），熱力学（機械4，電子制御4），流体工学（機械4，電子制御4），工学総論（専1） 関連科目：エネルギーシステム工学（専1年） 受講上のアドバイス：webで配布する資料を自分でダウンロード・印刷し，必ず持参すること。本科目は環境教育ならびに原子力コア人材育成関連科目である。授業冒頭の出席確認時に不在の場合，遅刻とし，授業開始から単位時間の半分を超過して入室した場合は欠課とする。						
	授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス			授業の実施方法や概要について理解する。	
		2週	世界のエネルギー情勢と日本／授業時間外：予習とプレゼン作成			世界のエネルギー情勢と日本について説明できる。	
		3週	限りあるエネルギー資源／授業時間外：予習とプレゼン作成			限りあるエネルギー資源について説明できる。	
		4週	エネルギーと環境／授業時間外：予習とプレゼン作成			エネルギーと環境について説明できる。	
5週	発電機のしくみ／授業時間外：予習とプレゼン作成			発電機のしくみについて説明できる。			

		6週	熱力学と火力発電のしくみ／授業時間外：予習とプレゼン作成	熱力学と火力発電のしくみについて説明できる。
		7週	(後期中間試験)	ここまでの内容を理解し説明や計算ができる
		8週	後期中間試験の答案返却と解説	試験の内容を理解し説明や計算ができる
	4thQ	9週	核エネルギーの利用／授業時間外：予習とプレゼン作成	核エネルギーの利用について説明できる。
		10週	力学的エネルギーと水力発電のしくみ／授業時間外：予習とプレゼン作成	力学的エネルギーと水力発電のしくみについて説明できる。
		11週	化学エネルギーから電気エネルギーへの変換／授業時間外：予習とプレゼン作成	化学エネルギーから電気エネルギーへの変換について説明できる。
		12週	光から電気エネルギーへの変換／授業時間外：予習とプレゼン作成	光から電気エネルギーへの変換について説明できる。
		13週	再生可能エネルギーを用いた種々の発電システム／授業時間外：予習とプレゼン作成	再生可能エネルギーを用いた種々の発電システムについて説明できる。
		14週	地域分散型エネルギーシステム／授業時間外：予習とプレゼン作成	地域分散型エネルギーシステムについて説明できる。
		15週	(後期末試験)	ここまでの内容を理解し説明や計算ができる
		16週	後期末試験の答案返却と解説	試験の内容を理解し説明や計算ができる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	10	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	10	0	0	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	応用制御工学	
科目基礎情報							
科目番号	0039			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：配布資料 参考書：R.ビール, T.ジャクソン著「ニューラルコンピューティング入門」						
担当教員	竹谷 尚						
到達目標							
学習目的：多様な制御方法を理解し，制御工学的な諸問題において，適切な解決方法を模索し得る能力を養う。							
到達目標： 1. ニューラルネットワークの概略，学習則および動作について説明できる。 2. ファジ理論の概略について説明できる。 3. 遺伝的アルゴリズムの概略について説明できる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	各種のニューラルネットワークについて特徴を把握し，工学的応用ができる。		ニューラルネットワークの学習則および振る舞いについて，具体的に説明できる。		ニューラルネットワークの学習則および振る舞いについて，概要を説明できる。		左記に達していない。
評価項目2	ファジ理論の特徴を理解し，簡単な例について工学的応用ができる。		ファジ理論の内容について，具体的に説明できる。		ファジ理論の内容について，概要を説明できる。		左記に達していない。
評価項目3	遺伝的アルゴリズムの工学的応用ができる。		遺伝的アルゴリズムの内容について，具体的に説明できる。		遺伝的アルゴリズムの内容について，概要を説明できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別・学習の分野：専門・情報と計測・制御 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学／電気電子工学・機械工学 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（A）技術に関する基礎知識の深化，A-2：「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」である。付随的には「A-1」にも関与する。 授業の概要：コンピュータの発達と共に，制御理論は急速に高度化し，多様化している。ここでは，最近，電化製品などで身近になってきた「ニューラルネットワーク・ファジ理論，遺伝的アルゴリズム」について，その概略を紹介する。						
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心に，プリント，パソコンでのシミュレーションなどを用い，一般理論の概略と最近の話題などを講義する。 成績評価方法：定期試験（70％）；レポート・演習（30％）試験は筆記用具，電卓、教科書等が持ち込み可能。原則として再試験は実施しない。						
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：これまでの制御方法とは全く異なる，新しい概念の制御方法ではあるが，制御工学や情報工学の知識も必要となる。 基礎科目：数理工学（専2年），計算力学（専2），システム制御工学（専2）など 受講上のアドバイス：これらの制御の中心はコンピュータソフトであるが，ここでは大規模なソフトは作らず，簡単な数値計算を行い理解の助けとする。従って，電卓等は常に携帯すること。授業開始から20分以内の入室であれば遅刻とし，遅刻3回で1欠課とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス，概説			授業内容を理解する	
		2週	生物による情報処理（1）			生物の情報処理	
		3週	生物による情報処理（2）			生物の情報処理	
		4週	生物による情報処理（3）			生物とコンピュータの比較	
		5週	ニューラルネットワークの概要			ニューロンモデル	
		6週	相互結合型ニューラルネットワークによる連想記憶			連想記憶の概要	
		7週	相互結合型ニューラルネットワークによる組合せ問題の解法			組合せ問題の概要	
		8週	階層型ニューラルネットワーク			ネットワークの振る舞いと学習アルゴリズム	
	4thQ	9週	深層学習			多層ネットワークの仕組み	
		10週	自己組織化マップ			SOMの概要	
		11週	遺伝的アルゴリズム（1）			GAの基礎	
		12週	遺伝的アルゴリズム（2）			GAの応用	
		13週	ファジ理論（1）			ファジ理論の基礎	

		14週	ファジィ理論（２）		応用例			
		15週	（後期末試験）					
		16週	後期末試験の答案返却と試験解説					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	計算力学
科目基礎情報					
科目番号	0040	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書：プリントを配布して授業を進める。参考書：川井ほか「計算力学入門」（森北出版），配布資料				
担当教員	小林 敏郎				
到達目標					
学習目的：計算機利用の応用課程として，具体的な理工学問題に適応されている主要な数値解析法を学び，計算機応用力学解析の理解を深める。					
到達目標： 1. テーラー展開を用いて近似式が作成できる。 2. 第1階，第2階の微分方程式の差分化ができる。 3. 単要素，複要素の形状関数，剛性マトリックスの導出が出来る。 4. マトリックス解法を理解し，複数要素の変位，応力の式が導出できる。 5. 有限要素法を理解している。 6. 汎用有限要素法コードを用いて，3次元の構造，伝熱，流体の標準的な問題を，大はずれすることなく解析できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	・第1階，第2階の微分方程式の差分化ができる。 ・簡単な差分式をプログラミングして，数値解を求めることができる。	・テーラー展開を用いて近似式が作成できる。 ・第1階，第2階の微分方程式の差分化ができる。	・テーラー展開を用いて基本的な近似式が作成できる。 ・第1階，第2階の微分方程式の基本的な差分化ができる。	・有限要素法の基本を理解している。 ・汎用有限要素法コードを用いて，3次元の構造，伝熱，流体の基本的な問題を，大はずれすることなく解析できる。	
評価項目2	・マトリックス解法を用いて，複数要素の具体的な構造問題の変位，応力を解析することができる。	・単要素，複要素の形状関数，剛性マトリックスの導出が出来る。 ・マトリックス解法を理解し，複数要素の変位，応力の式が導出できる。	・単要素，複要素の形状関数，剛性マトリックスの導出が出来る。 ・基本的なマトリックス解法を理解し，複数要素の変位，応力の式が導出できる。	・単要素，複要素の形状関数，剛性マトリックスの導出が出来ない。 ・マトリックス解法を用いて変位，応力を算出する演習問題が期限までに完成できない。	
評価項目3	・汎用有限要素法コードを用いて，3次元の構造，伝熱，流体の基本的な問題を，大はずれすることなく解析できる。 ・有限要素法を用いた各種解析において，大はずれしないように，理論解と比較して考察できる。	・有限要素法を理解している。 ・汎用有限要素法コードを用いて，3次元の構造，伝熱，流体の標準的な問題を，大はずれすることなく解析できる。	・有限要素法の基本を理解している。 ・汎用有限要素法コードを用いて，3次元の構造，伝熱，流体の基本的な問題を，大はずれすることなく解析できる。	・有限要素法を理解していない。 ・汎用有限要素法コードを用いて，3次元の構造，伝熱，流体の基本的な問題を，大はずれすることなく解析できない。 ・演習問題が期限までに完成できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：設計と生産 必修・選択の別：選択 基礎となる学問分野：工学／機械工学 専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(2)材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産・管理，機械とシステムなどの専門分野技術の知識を修得し，機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化，A-2「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産」，「機械とシステム」に関する専門技術分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的に「A-1」にも関与する。 授業の概要：電子計算機の発展に伴い技術計算の精密化と高速化が進み，数値実験が工学的手法の重要な分野になってきた。自然現象を数理モデルとして表現し，コンピュータにより解析を行う手法について解説，演習を行う。				
授業の進め方・方法	授業の方法：板書を中心に授業を進めるが，具体的な力学モデルの提示を心掛ける。計算力学の基礎原理の理解が深まるように，レポートを課す。 成績評価方法：定期試験（70％），レポート（30％）で評価する。場合によっては再試験を実施する。				
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：情報処理I，IIおよび数値解析で学んだ内容を十分に理解していることが望ましい。 基礎科目：応用機械設計（機械5年），設計工学（電子制御5），応用設計工学（専2），情報科学（専1）など 関連科目：設計工学（5年），CAD/CAM（5），応用設計工学（専1）， 受講上のアドバイス：高性能かつ廉価で使い易いPCやOSが普及し，様々な汎用計算力学ソフトウェアが簡便に利用できるようになり，計算力学のユーザー層が急速に広がって入る。基本的な計算力学の問題に対して，正しく解析問題を設定し，CAE解析の内容を理解して，さらに解析結果の信頼性を自分自身で検証することができることが重要である。 ・機械学会の計算力学技術者認定試験を目指して，理論とスキルを習得してほしい。授業開始時に着席していない場合，遅刻とする。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	

前期	1stQ	1週	●ガイダンス	計算力学とは何かが説明できる。
		2週	●計算力学のための数学の基礎	計算力学のための数学を理解する。
		3週	●熱伝導，固体力学の基礎 レポート課題（1）3D-CAD	熱伝導，固体力学の基礎を理解し差分式が求められる。
		4週	●有限要素法の基礎Ⅰ	有限要素法の原理が説明できる。
		5週	●有限要素法の基礎Ⅱ	有限要素法を用いた基本的な解析ができる。
		6週	●CAE演習(1)応力歪み解析 レポート課題（2）数値計算法(1)	有限要素法を用いた基本的な解析が妥当であることを確認できる。
		7週	●CAE演習(2)伝熱解析	有限要素法を用いた基本的な伝熱解析ができる。
		8週	●要素の選択	有限要素法の要素を理解し，その影響を説明できる。
	2ndQ	9週	●モデリングの基礎 レポート課題（3）数値計算法(2)	有限要素法のモデリング手法を理解し，その影響を説明できる。
		10週	●境界条件の使い方の基礎	有限要素法の境界条件の種類を理解し，適用できる。
		11週	●プレポスト処理の基礎	有限要素法のプレポスト処理手法を理解し，適用できる。
		12週	●CAE演習(3)振動解析 レポート課題（4）CAE演習(1)	有限要素法を用いた基本的な振動解析ができる。
		13週	●CAE演習(4)流体解析	有限要素法を用いた基本的な流体解析ができる。
		14週	●結果の検証の基礎，計算力学技術者倫理 レポート課題（5）CAE演習(2)	計算力学技術者倫理について理解する。
		15週	（期末試験）	出席し答案を提出する。
		16週	●期末試験の答案返却と解答解説	誤答を修正する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0